

令和2年度

第六次青梅市生涯学習推進計画

進捗状況報告書

(令和元年度分事業)

青梅市生涯学習推進本部

はじめに

青梅市では、生涯学習施策を計画的に推進するため、令和元年度を初年度とする「第六次青梅市生涯学習推進計画」を策定し、様々な施策に取り組んでいます。

この報告書は、「第六次青梅市生涯学習推進計画」の進捗状況について年次報告として作成したものです。

生涯学習の理念である、市民一人ひとりが、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現に向けて、計画の総合的かつ横断的な推進を図ります。

令和2年10月

目 次

第1章

I 計画の概要	7
II 施策の展開	10
III 青梅市事業計画一覧	16

第2章

計画の進捗状況調査報告書	23
1 生涯学習の基礎づくり	25
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	25
(2) 小・中学校教育の充実	26
(3) 家庭・学校・地域の連携	28
2 生涯学習の場と機会の拡充	31
(1) 施設の整備と有効活用	31
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	31
(3) とともに生きるための学習機会の充実	36
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	38
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	41
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から	45
(1) 地域コミュニティ活動への支援	45
(2) 地域人材の育成と活用	46
4 学習情報提供と学習相談の充実	50
(1) 学習情報提供の充実	50
(2) 学習相談の充実	51
5 生涯学習推進体制の確立	52
(1) 推進体制づくり	52
(2) 基盤づくり	52

第 1 章

I 計画の概要

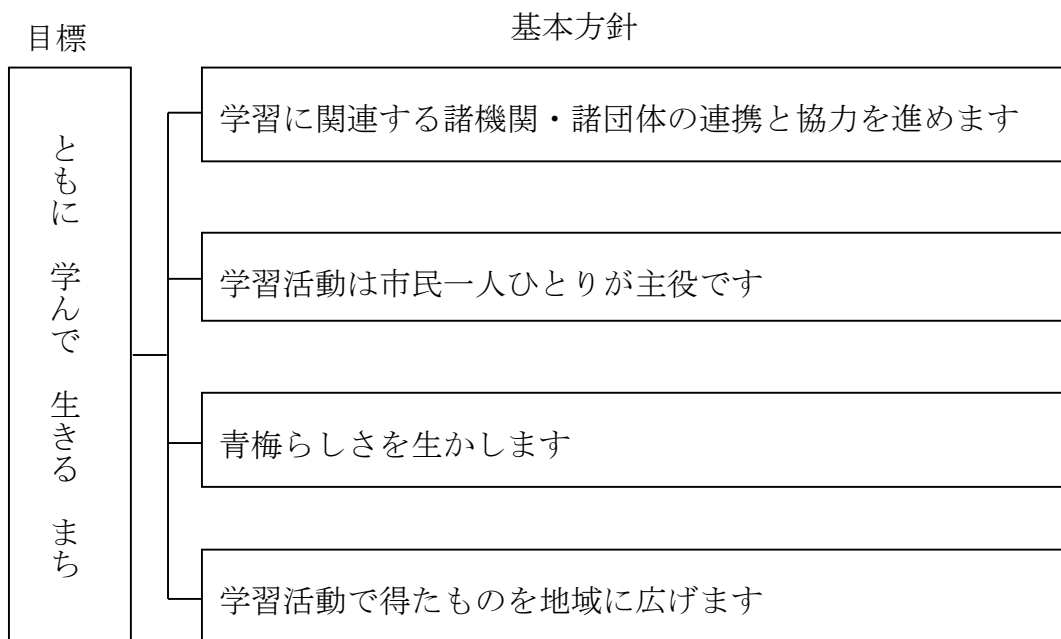
II 施策の展開

III 青梅市事業計画一覧

I 計画の概要

第六次青梅市生涯学習推進計画

1 生涯学習推進の目標と基本方針



市民が生涯を通じ、主体的に学習機会を選択して学び、その成果を社会に生かしていくことができる「ともに学んで生きるまち」の実現を目指し、いつでも、どこでも、誰でもが学び、楽しみ、その成果が豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進を図ります。

また、学習成果の総合的な発表の場や生涯学習の基盤となる施設の整備を図ります。

2 計画策定の趣旨

青梅市では、市民一人ひとりが生涯を通じて地域社会の中でともに学び・ともに教え合いながら、生きがいのある充実した生活を送ることができるような「生涯学習社会」を築くために、生涯学習推進計画を策定します。「ともに学んで生きるまち」を目指して、市と市民のパートナーシップをもとにした生涯学習のまちをつくるために、市が実施している生涯学習関連の諸事業を体系化するとともに、市内生涯学習関係機関団体、地域住民との連携・協働により、諸施策の効果的な展開を図っていきます。

3 計画の期間

令和元年度から令和5年度までの5年間とします。

この推進計画は、第6次青梅市総合長期計画（平成25年度から令和4年度まで）を上位計画とし、他の部門別計画とも整合性を図っていきます。

4 計画の指針

青梅市における生涯学習に関する施策の総合的・効果的な推進を図り、生涯学習に関する既存施策を総合的な観点から体系化するとともに、将来において展開する必要がある施策の考え方を示します。

5 計画の範囲

- (1) 生涯学習社会の形成に向けての行政の役割を明記するものですが、計画の推進に当たっては、生涯学習に関連する各種団体・機関等と連携を図りながら推進します。
- (2) 対象となるのは、教育、文化、スポーツのほか、趣味やレクリエーション、福祉、保健衛生、防災、まちづくり等、行政や各種団体・機関等で行う幅広い分野の学習事業とします。

6 生涯学習とは

生涯学習とは、市民一人ひとりが生涯にわたり、あらゆる機会に、あらゆる場所において主体的に行う学習活動の総称です。すなわち、学校教育、社会教育、文化活動、スポーツ活動、レクリエーション活動、ボランティア活動、企業内教育、趣味等様々な場や機会において行う学習の意味で用いられ、学習の形態についても、個人学習や、公共機関等が行う講座・講演会、民間教育機関が行う講座、通信教育、企業や職業訓練施設等で行われる学習、グループ・サークル・団体活動の中で行われる学習など、多岐にわたります。

生涯にわたって学ぶという事は、ライフスタイルやビジネスを充実させるための知識学習、職業教育だけでなく、生きがいや心の豊かさに結びつきます。また、学習する向上心が地域の活性化をもたらし、学習活動を通してこそ、よりよい人間関係が生まれ、豊かで住みよい地域が実現されます。学習した人々が地域の担い手として地域づくりに参加し、学習の成果をまちづくりに活かしていくことが期待されています。

また、教育基本法では、「生涯学習の理念」という項目があり、「誰もが生涯のあらゆる場面で学習し、かつ学習した成果を生かすことができる社会」を実現しようという姿勢が明確に打ち出されています。

— スローガン —

「ともに学んでいきるまち」をめざして

O 応援します お互いに

M 学んで 教えて

E エンjoyします

みんなで 楽しむ 生涯学習

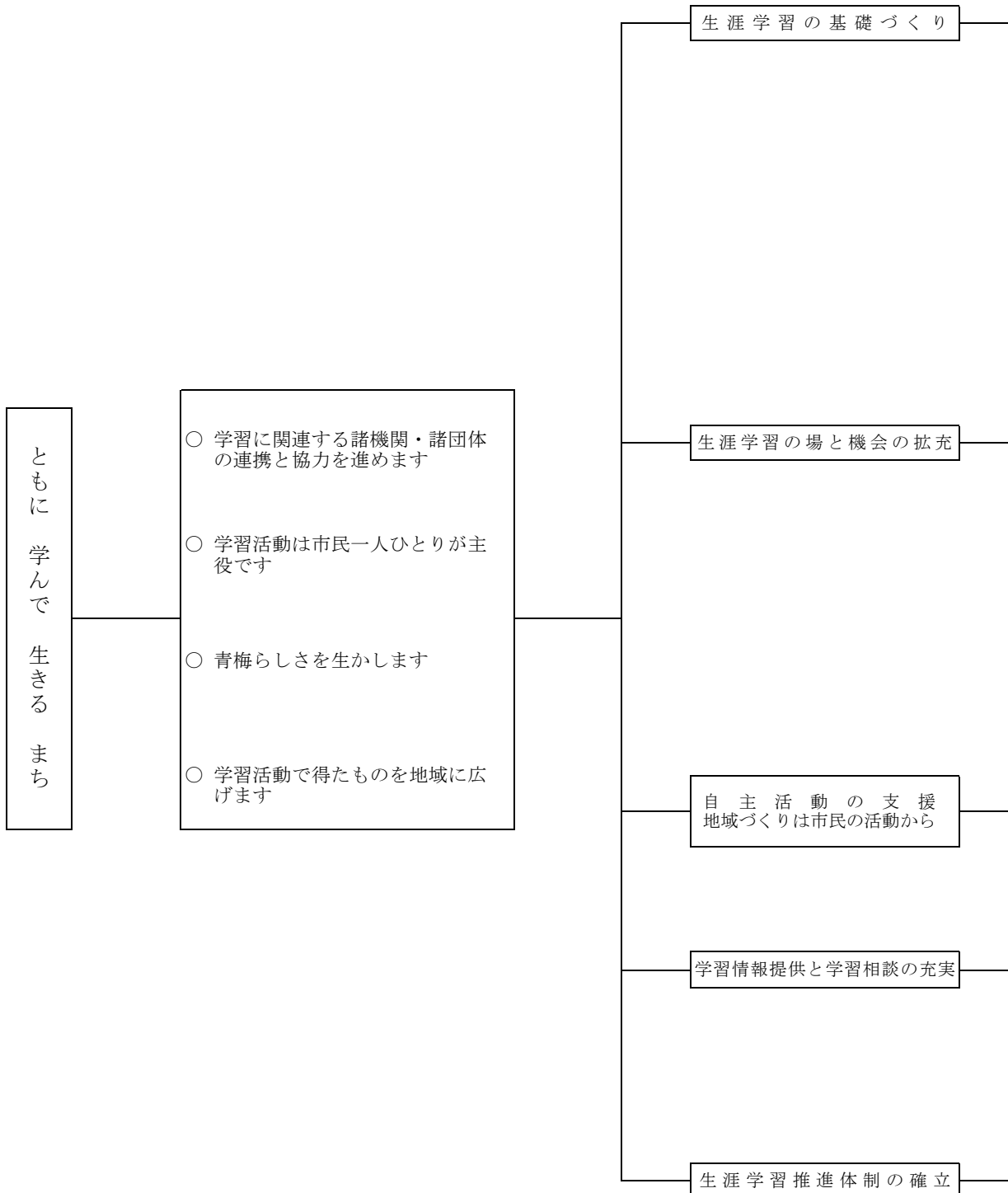
II 施策の展開

1 計画の体系

(目標)

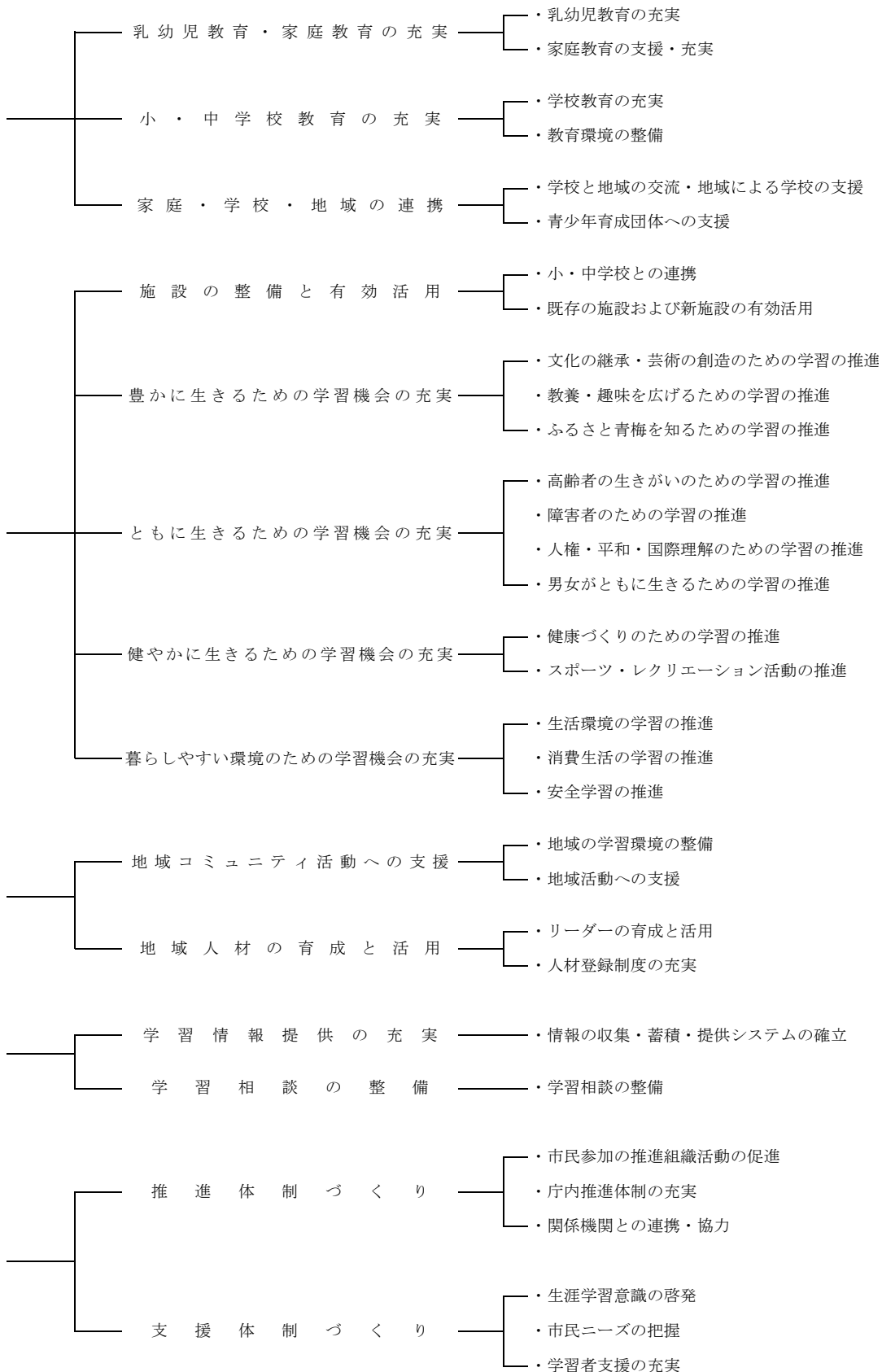
(基本方針)

(基本的施策)



(主な施策の方向)

(施策の内容)



2 基本的施策

- 1 生涯学習の基礎づくり
- 2 生涯学習の場と機会の拡充
- 3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から
- 4 学習情報提供と学習相談の充実
- 5 生涯学習推進体制の確立

1 生涯学習の基礎づくり

基本的な考え方

生涯にわたり自らが考え、創造性豊かな充実した人生を送るためには、人間形成の基礎をつくる子どもの時期に、基本的な学力や自らを成長させようという意欲、生きる力、社会生活の基本的ルールなどを身につけることが大事です。個性豊かな子どもの健全な成長を願い、家庭・学校・地域が連携して子育て支援・教育の充実を図り、地域社会全体で行われるような環境を目指します。

子どもを取り巻く学習環境を見ると、少子化・核家族化の進展と同時に、家庭教育力・地域教育力の低下が叫ばれています。また、いじめ、不登校等、様々な問題が子ども達に重圧をかけてきています。このようなことから、各保育園で行っている子育て支援事業との連携や、小・中学校との連携を含めた子育て相談、家庭教育の機会の提供など、家庭教育への支援や地域での青少年関係団体活動への支援などを通して「生涯学習の基礎づくり」に努めます。

主な施策の方向

- (1) 乳幼児教育・家庭教育支援の充実
- (2) 小・中学校教育の充実
- (3) 家庭・学校・地域の連携

2 生涯学習の場と機会の拡充

基本的な考え方

市民が自主的に生涯にわたって学習し、健康で豊かな生活を送ることができるよう、市民一人ひとりがその能力や個性を伸ばし、「いつでも・どこでも・誰でも」学べるよう、学習の場と機会の拡充に努めます。市は、市民が持っている知識や経験を生かせるよう、コーディネーターの役割を果たし、学習内容を充実させていきます。

また、新しく開館する青梅市文化交流センターでは、市民のアイデアや意見等に柔軟に対応できる運営体制を築くことを目指し、地域の人材を生かしたプロデューサーを配置します。さらに、インターネットの活用をはじめ、様々な媒体を利用した生涯学習に関する情報提供の充実に努め、市民の利便性の向上を図ります。

主な施策の方向

- (1) 施設の整備と有効活用
- (2) 豊かに生きるための学習機会の充実
- (3) とともに生きるための学習機会の充実
- (4) 健やかに生きるための学習機会の充実
- (5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

基本的な考え方

地域づくり・まちづくりは市民の着実な活動から始まります。団体・サークル等の自主活動を通じて、仲間とのふれあいが生まれ、人々との関係が豊かになり、お互いに学び合い、教え合うような人間関係が形成されます。自主的な地域団体・生涯学習サークルの活動が活発になるよう応援するため、団体等の自主性を基本として、活動の場の提供や支援をしていきます。

また、生涯学習は本来行う事自体が楽しいものですが、学習の成果を地域社会に生かすことは、学習者にとって自己の成長を確認できるなど、大きな意味も持ちます。生涯学習を通じて得た学習の成果を、地域やボ

ランティア活動に生かし、市民同士が教え合い、学び合う環境を整備し、生涯学習が地域の市民の手で推進していく体制の確立を図ります。

主な施策の方向

- (1) 地域コミュニティ活動への支援
- (2) 地域人材の育成と活用

4 学習情報提供と学習相談の充実

基本的な考え方

市民一人ひとりの学びの意思・意欲を大切にするとともに、学習活動が活発に行われるためには、生涯学習情報を「いつでも・どこでも・誰でも」入手できることが求められています。

このことから、広報等の印刷物による学習や機会の場・方法などに関する情報をはじめ、インターネット等様々な媒体を利用して情報を提供し、生涯学習に関する情報を発信することで、市民の生涯学習を支援します。

主な施策の方向

- (1) 学習情報提供の充実
- (2) 学習相談の整備

5 生涯学習推進体制の確立

基本的な考え方

青梅市における生涯学習関連事業は、教育行政だけでなく、一般行政においても活発に行われています。市民の自主的な学習活動を効果的に支援していくために、現在各事業の担当課で独自に企画・実施されている生涯学習事業を、それぞれの事業の目的を大切にしながら、市民の生涯学習の推進という視点から捉え直し、「生涯学習推進本部」や「総合教育会議」などを通じて情報を共有し、相互に連携・協力関係を築いていくことが大切です。

また、各課の連携・協力関係を築くことで、類似の事業が重複して実施されることを避け、バランスよく効率的に事業を実施していくことが

できます。

さらに、学習の主体である市民の意見を生涯学習の推進施策に反映させていくことが大切であり、電子申請による講座企画等のアイデア受付機能を活用し、市民の意見にもとづく講座を実施する等、施策の充実を図ります。

また、市と市民が協力しながら施策を進めていくための情報交換や意見交換の場が必要です。このことから、市の推進組織である青梅市生涯学習推進本部と、学識経験者や生涯学習関係団体の代表者からなる青梅市生涯学習推進市民会議の連携・協力関係を推進し、生涯学習推進体制の充実を図ります。

主な施策の方向

- (1) 推進体制づくり
- (2) 支援体制づくり

Ⅲ 青梅市事業計画一覧

No.	事業名	所管課等	頁	
1 生涯学習の基礎づくり			25	
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実				
1	プレママクラス（母親・両親）学級	健康課	25	
2	乳幼児健康相談	健康課		
3	子育てひろば事業	子ども家庭支援課		
4	子育て支援事業	子ども家庭支援課		
5	家庭教育学級	社会教育課		
6	おはなし会	社会教育課（図書館）		
7	子ども読書活動推進事業講演会	社会教育課（図書館）		
8・9・10	ブックスタート事業	健康課・子ども家庭支援課・社会教育課（図書館）		
(2) 小・中学校教育の充実				
11	特別支援学級の運営	学務課	26	
12	教育相談機関の充実	学務課		
13	適応指導教室の充実	指導室		
14	情報教育の推進	指導室		
15	芸術・技術教育の支援	指導室		
16	スポーツ教育の振興	指導室		
17	教員研修	指導室		27
18	教育研究支援	指導室		
19	教科指導等の充実	指導室		
20	進路指導の充実	指導室		
21	生徒指導の充実	指導室		
22	学校防災訓練	青梅市立第二中学校		
(3) 家庭・学校・地域の連携				
23・24	P T Aの活動への支援	市民センター・社会教育課		28
25・26	青少年委員活動	市民センター・社会教育課		
27	協働事業の支援	市民活動推進課		
28	青少年問題協議会	子ども家庭支援課		
29・30	青少年対策地区委員会事業への支援	市民センター・子ども家庭支援課	29	
31	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	社会教育課		
32	放課後子ども教室	社会教育課		
33	職場体験事業	社会教育課（図書館）		
34	図書館と学校図書館との連携事業	社会教育課（図書館）		
35・36	地域人材の活用	指導室・社会教育課		
2 生涯学習の場と機会の拡充			31	
(1) 施設の整備と有効活用				
37・38	学校施設開放	スポーツ推進課・社会教育課	31	
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実				
39	多摩川1万人の清掃大会	清掃リサイクル課	31	
40	河川清掃活動援助	清掃リサイクル課		
41	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者支援課		
42	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者支援課		
43	敬老会	高齢者支援課		
44	観梅市民まつり	商工観光課		
45	後援等協力事業	商工観光課		
46	昭和レトロ商品博物館	商工観光課		32
47	青梅赤塚不二夫会館	商工観光課		
48	シイタケ栽培講習会	農林水産課		
49	青梅市農業祭	農林水産課		
50	炭焼き体験教室	農林水産課		
51	成人式	社会教育課		
52	掌理団体定期演奏会等	社会教育課		
53	市民大学	社会教育課		

No.	事業名	所管課等	頁
54	農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	社会教育課	33
55	豊かに生きるための教室・講座等の実施	社会教育課	
56	16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	社会教育課	34
57	中央図書館講座等	社会教育課（図書館）	
58	中央図書館での工作及び手芸教室	社会教育課（図書館）	34
59	中央図書館での上映会	社会教育課（図書館）	
60	展示・普及事業	文化課（郷土博物館）	35
61	文化財の調査・保護・活用	文化課（郷土博物館）	
62	文化財の普及・啓発	文化課（郷土博物館）	35
63	展示・普及事業	文化課（美術館）	
64	明るい選挙推進講演会	選挙管理委員会	35
65	親子農業体験会	農業委員会	
66	蛭を見るタベ	商工観光課・青梅市観光協会	35
67・68	生涯学習フェスティバル（釜の淵新緑祭）	社会教育課・文化課	
(3) ともに生きるための学習機会の充実			
69	国際交流活動支援	秘書広報課	36
70	通訳ボランティア	秘書広報課	
71	平和の写真展の開催	市民安全課	36
72	男女平等講座の開催	市民活動推進課	
73	女性の就業支援	市民活動推進課	37
74	老壮大学	市民センター	
75	社会を明るくする運動	福祉総務課	37
76	家庭介護DVDの貸出し	高齢者支援課	
77	認知症サポーター養成講座	高齢者支援課	37
78	家族介護教室	高齢者支援課	
79	手話講習会事業	障がい者福祉課	37
80	点字図書給付事業	障がい者福祉課	
81	身体障がい者自動車運転教習事業	障がい者福祉課	37
82	相談支援事業	障がい者福祉課	
83	意思疎通支援事業	障がい者福祉課	37
84	青梅市障がい者サポートセンター事業	障がい者福祉課	
85	中等度難聴児発達支援事業	障がい者福祉課	37
86	ともに生きるための教室・講座の企画運営	社会教育課	
87	生涯学習まちづくり出前講座	社会教育課	38
88	国際理解講座	青梅佐藤財団・社会教育課	
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実			
89	介護予防講演会	高齢者支援課	38
90	介護予防教室	高齢者支援課	
91	おうめ健康まつり	健康課	39
92	健康教育	健康課	
93	健康相談	健康課	39
94	おうめ健康塾	総合病院管理課	
95・96	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	スポーツ推進課・社会教育課	40
97	各種体操教室	スポーツ推進課	
98	青梅マラソン大会	スポーツ推進課	40
99	有酸素運動普及事業	スポーツ推進課	
100	スポーツ・レクリエーションフェスティバル	スポーツ推進課	41
101	市民体育大会	スポーツ推進課	
102	奥多摩溪谷駅伝競走大会	スポーツ推進課	41
103	屋内温水プール開放事業	スポーツ推進課	
104	東京2020大会に向けた気運醸成事業	オリンピック・パラリンピック担当	41
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実			
105	広聴活動	市民安全課	41
106	交通公園日曜映画教室	市民安全課	
107	交通公園交通安全教室	市民安全課	41
108	交通安全講習会	市民安全課	
109	セーフティ教室（交通事故再現方式）	市民安全課	41

No.	事業名	所管課等	頁	
110	専門相談事業	市民安全課	42	
111	パネル展等(消費者知識習得・被害防止)	市民安全課		
112	消費者相談	市民安全課		
113	消費生活講座等	市民安全課		
114	市民のくらし展	市民安全課		
115	環境月間	環境政策課		
116	親水事業	環境政策課		43
117	ヤマメの飼育体験教室	環境政策課		
118	動物愛護週間	環境政策課		
119	フードドライブ	清掃リサイクル課		
120	ごみ処理施設見学会	清掃リサイクル課		
121	市内一斉美化デー	清掃リサイクル課		
122	小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスター&キャッチフレーズコンクール	清掃リサイクル課		
123	ごみ減量講座	清掃リサイクル課		
124	梅の里再生に関する学びの機会の提供	梅の里再生担当		
125	暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	社会教育課	44	
126・127	護美拾い合戦	清掃リサイクル課・スポーツ推進課		
3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から			45	
(1) 地域コミュニティ活動への支援				
128	ぶらっとフォーム推進ワークショップ	企画政策課	45	
129	総合防災訓練	防災課		
130	防災ハンドブックの更新・配布	防災課		
131	市民活動災害補償制度	市民活動推進課		
132	自主学习グループ支援	市民センター		
133	支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	市民センター		
134	環境美化大会	清掃リサイクル課	46	
135	資源回収の奨励	清掃リサイクル課		
136	地区市民運動会等支援	スポーツ推進課		
137	総合文化祭	社会教育課		
138	クリーン活動	青梅市立第一中学校		
139	多摩川1万人清掃活動	青梅市立第一中学校		
140	地域防災訓練	青梅市立第二中学校		
141	地域清掃	青梅市立第二中学校		
142	自治会運動会への参加	青梅市立第二中学校		
143	多摩川1万人の清掃大会への参加	青梅市立第二中学校		
(2) 地域人材の育成と活用				
144	防災リーダーの育成	防災課	46	
145	子ども会ジュニアリーダー講習会	市民センター	47	
146	子ども会育成指導者講習会	市民センター		
147	地域の特性を生かした事業	市民センター		
148	緑地管理ボランティア	公園緑地課		
149	介護予防リーダー養成講座	高齢者支援課		
150	シルバーマイスター制度	高齢者支援課		
151	吹上しょうぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	商工観光課		48
152	青梅市森林ボランティア育成講座	農林水産課		
153	スポーツ推進委員研修	スポーツ推進課		
154	青少年リーダー育成研修会事業	社会教育課		
155	講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体内人材登録制度	社会教育課		
156	芸術文化奨励賞	社会教育課		
157	おはなし学習会	社会教育課(図書館)		
158	絵本のべんきょう会	社会教育課(図書館)	49	
159	合同企業説明会 in 青梅	商工観光課・青梅商工会議所		
4 学習情報提供と学習相談の充実			50	
(1) 学習情報提供の充実				
160	「広報おうめ」への行政情報等掲載	秘書広報課	50	

No.	事業名	所管課等	頁
161・162	市ホームページへの行政情報等掲載	秘書広報課・情報システム課	50
163	土砂災害ハザードマップの作成	防災課	
164	男女平等情報紙	市民活動推進課	
165	市民センターだよりの発行	市民センター	
166	青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	市民税課	
167	生涯学習だよりの発行	社会教育課	
168	社会教育事業の学校への周知	社会教育課	
169	図書館報の発行	社会教育課（図書館）	
170	ブックリストの配布	社会教育課（図書館）	
171	分館図書館だよりの発行	社会教育課（図書館）	
(2) 学習相談の充実			
172	生涯学習相談	社会教育課	51
5 生涯学習推進体制の確立			52
(1) 推進体制づくり			
173	職員研修受講支援	職員課	52
174	生涯学習推進本部	社会教育課	
175	生涯学習推進市民会議	社会教育課	
(2) 基盤づくり			
176	市民企画講座の募集	社会教育課	52
177	アンケートの実施	社会教育課	
178	学習支援体制の構築	社会教育課	

第2章

計画の進捗状況調査報告書

計画の進捗状況調査報告書

調査内容 事業内容と進捗状況

1 令和元年度取組状況

2 担当課評価

評価記号	評 価	評 価 基 準
◎	順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的で優れた取組を行った ・ 大きな成果を上げた ・ 課題や問題点は一つもない
○	おおむね順調である	<ul style="list-style-type: none"> ・ 効果的な取組を行った ・ 一定の成果を上げた ・ 大きな課題や問題点はない
△	一部困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組を行った ・ 多少の成果を上げた ・ 課題や問題点がある
×	困難な課題がある	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組を行わなかった ・ 取組を行ったが成果は上がらなかった ・ 大きな課題が残った
—	事業終了 隔年実施 台風19号による中止 新型コロナウイルス感染 予防による中止	

事業計画	事業数	◎	○	△	×	－
1 生涯学習の基礎づくり	36	2	34	0	0	0
(1)乳幼児教育・家庭教育の充実	10	2	8	0	0	0
(2)小・中学校教育の充実	12	0	12	0	0	0
(3)家庭・学校・地域の連携	14	0	14	0	0	0
2 生涯学習の場と機会の拡充	91	2	79	5	2	3
(1)施設の整備と有効活用	2	0	2	0	0	0
(2)豊かに生きるための学習機会の充実	30	1	26	1	0	2
(3)ともに生きるための学習機会の充実	20	0	17	3	0	0
(4)健やかに生きるための学習機会の充実	16	0	15	0	0	1
(5)暮らしやすい環境のための学習機会の充実	23	1	19	1	2	0
3 自主活動の支援	32	1	27	3	0	1
(1)地域コミュニティ活動への支援	16	1	12	2	0	1
(2)地域人材の育成と活用	16	0	15	1	0	0
4 学習情報提供と学習相談の充実	13	0	12	0	0	1
(1)学習情報提供の充実	12	0	11	0	0	1
(2)学習相談の整備	1	0	1	0	0	0
5 生涯学習推進体制の確立	6	0	6	0	0	0
(1)推進体制づくり	3	0	3	0	0	0
(2)基盤づくり	3	0	3	0	0	0
合 計	178	5	158	8	2	5
割 合 (%)	100	2.8	88.8	4.5	1.1	2.8

基本的施策

1生涯学習の基礎づくり

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 乳幼児教育・家庭教育の充実	健康課	1 プレママクラス(母親・両親)学級	初産の妊婦とその夫を対象に安心して出産・子育ての準備ができるように学び、親となる心構えを伝え、妊娠中の不安を解消します。	健康センターにおいて、母親(両親)学級を実施した。 ・3日間コース 年7回実施 延べ参加人数 149人 ・体験コース 年6回実施 延べ参加人数 41人 ・両親コース(土曜日) 年7回→6回(新型コロナウイルス感染症予防のため3月に1回中止した) 参加延べ数 146人	◎	3日間コースの中に、新規に「先輩ママとの交流」を取り入れ、実際の育児の様子など聞くことができ、出産後の育児に良い影響を与えた。
	健康課	2 乳幼児健康相談	健康・栄養・歯科および育児に不安がある乳幼児に対し、小児科医師等が専門的な立場から適切な指導助言を行い、保護者の育児を支援します。	健康センターにおいて、以下の相談事業を実施したほか、電話での各種相談にも対応した。 ・医師による乳幼児健康相談 年23回実施 延べ件数332件 ・健康センター専門職による乳幼児健康相談 年12回実施 延べ件数166件 ・心理相談員による子ども発達相談 年52回実施 延べ件数284件	○	気軽に相談が出来る場として、健診や新生児訪問時に御案内し健診後のフォローや成長発達を確認している。相談内容は、計測のみの利用から、育児・栄養・歯科に関する相談を行うことにより育児における不安解消の一助になっている。医師による乳幼児健康相談は、年間24回のところ、新型コロナウイルス感染症予防のため1回中止となった。 心理相談は、言葉の遅れや行動等に関する相談にのることで、保護者の不安解消の一助になり、今後のサポートにつなげることができた。
	子ども家庭支援課	3 子育てひろば事業	親子の遊びの場と交流の場を提供し、子育てに関すること等日常的で身近な問題について、保護者・子どもから相談を受け、話し相手になります。また、啓発事業を実施します。	・子育て支援センター、永山ふれあいセンターの「キッズぱーく」(平成31年4月末廃止)、東青梅市民センター内「おひさま広場」、河辺市民センター内「ウメスタ」、文化交流センター内「にこにこ」(令和元年5月開設)、下長瀬自治会館「とことこ」のほか、12保育所で実施した。 ・身近な地域に子育て中の親子が参加できるふれあいの場を提供した。 ・育児講座を開催。 ・親子参加行事を開催。 ・相談業務を行った。	◎	開館した文化交流センターに子育てひろば「にこにこ」を新規に開設した。 育児講座などの実施や、子育て中の保護者へ積極的に情報の提供を行うとともに、相談業務で子育てに関する相談を受け、子育て中の保護者の不安を解消することができた。
	子ども家庭支援課	4 子育て支援事業	市民センター等において、子育てと子どもの健やかな成長を支援する場を提供するとともに、講座等を行います。	・市内の市民センター、子育て支援センターで事業を実施した。 ・手遊び型の事業では和室や会議室などで、絵本や積み木などを使った遊びを行った。 ・体育型では体育館でボールや縄跳びなどを使った遊びを行った。 実施回数 256回 延べ参加人数 4,425人 ・同年齢の乳幼児とその保護者へ、子育て支援講座「親子スキンシップ教室」と体験型イベント「あつまれ! 0・1・2・3ちびっこ☆ランド」を実施した。 延べ参加人数 1,843人	○	市民センターや子育て支援センターで行うことにより、市民が気軽に利用できる子育ての場を提供することができたため。また、会場に講師を配置し、はじめての利用者にも利用しやすい雰囲気を作ることができたため。 「親子スキンシップ教室」等では、保護者に対し、乳幼児の知性・感性を育て、人格形成を図る技術の会得の機会を提供することができたため。
	社会教育課	5 家庭教育学級	乳幼児から高校生を持つ親を対象に、家庭教育に関する様々なテーマで開催します。	家庭教育講演会 ・第1回 あなたが守る こどもの安全～かけがえのない命を守るために今、私たちにできること～ 実施日 5月25日 参加人数 29人 ・第2回 こどものやる気を引き出す! 家族の応援(エール) 実施日 7月27日 参加人数 36人 ・第3回 がまんする力はどのようにして育つのか～子どものいやいやとしつけ～ 開催予定日 3月21日 新型コロナウイルス感染症流行により中止	○	その時期に話題になっているテーマを選び、3回の講演会を計画し、参加者の評価も良かった。また、乳幼児の保護者も参加しやすいよう、託児保育を実施した。
	社会教育課(図書館)	6 おはなし会	絵本の読み聞かせやおはなしの語りなどをを行います。	・4月13日から2月27日まで延べ109回、中央図書館・市民センター・小学校などでおはなし会を実施した。延べ参加人数2,461人 ・紙芝居のおはなし会「えいちゃん」と蘭の紙芝居劇場」を実施した。7月27日・11月12日の延べ6回 延べ参加人数172人	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催事業は中止したが、11か月間事業を実施し、多くの参加者を得ることができた。
	社会教育課(図書館)	7 子ども読書活動推進事業講演会	子どもの読書活動を推進するための講演会などを実施します。	11月2日に、戸森るこ氏による講演会「おしるこ日和 2019秋」を開催した。 参加人数 34人	○	児童文学者を招き講演会を開催して、34人の参加者を得ることができた。
	健康課	8	乳幼児健診時において、希望する保護者に対し、絵本の読み聞かせ等の相談とブックスタート・リーフレットの配布を実施します。	生後4か月までの赤ちゃんを全戸訪問する「こんには赤ちゃん事業」を実施の際に、絵本の配布をした。 訪問数 706件 絵本配付数 672冊	○	乳児とその保護者が絵本を介してゆっくり向き合い、心触れ合う一時を持つきっかけづくりを図ることができた。
	子ども家庭支援課	9 ブックスタート事業		おおむね生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ機会を提供する「こんには赤ちゃん」事業で、ブックスタート事業による絵本を配布した。 配布数 672冊	○	乳児のいる家庭に絵本を配布し、乳児とその保護者が絵本を介してゆっくり向き合い、心触れ合う一時を持つきっかけづくりをすることができた。
	社会教育課(図書館)	10		健康課との共催で、乳幼児に対する絵本の配布と、4月3日から2月19日までの延べ22回、乳幼児健診時において、絵本の紹介とブックスタート・リーフレット「あかちゃんといっしょに」の配布を行った。中央図書館で行う乳幼児向けおはなし会の案内も行った。 延べ参加人数 1,300人	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催事業は中止したが、11か月間事業を実施し、1,300人の参加者を得ることができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 小・中学校教育の充実	学務課	11 特別支援学級の運営	児童・生徒の障害に応じたきめ細かな教育を実施していくため、教育環境の整備を図ります。特別支援学級設置校に介護員を配置します。	・教育環境の整備 令和元年度は、中学校4校(第一中、第二中、西中、第七中)に特別支援教室を導入した。 また、令和2年度に東中学校を除く全中学校への特別支援教室の導入完了に向けて中学校6校の導入準備を行った。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)については、児童・生徒の学校生活および学習活動の補助ならびに教員の教育活動を支援するために、児童・生徒数に合わせ増員した(小学校27人→29人、中学校13人→17人)	○	・教育環境の整備 令和元年度に特別支援教室を開設した中学校4校は順調に運営されている。また、令和2年度に導入する中学校6校(第三中、第六中、霞台中、吹上中、新町中、泉中)について、工事、備品購入等の必要な整備を行った。 ・介護員の配置 特別支援学級(固定学級)に在籍する児童・生徒数に合わせ介護員を配置し、児童・生徒への指導の充実に努めた。
	学務課	12 教育相談機関の充実	1 教育相談所 幼児・児童・生徒や保護者から、学校生活や家庭における問題、悩みについて相談に応じ、援助・助言を行います。 2 青少年相談室 青少年や保護者から、生活指導や性格、行動等の問題、悩みの相談に応じ、青少年等の非行防止と健全育成を図ります。 3 スクールソーシャルワーカーおよび心理相談員の派遣などにより、青梅市公立学校相談室と教育相談所等の連携を図ります。	・教育相談所 「青梅市いじめの防止に関する条例」にもとづき開催した「青梅市いじめ問題対策連絡協議会」および「青梅市教育委員会いじめ問題対策委員会」において、教育相談所の職員が委員として出席し、連携について協議した。 ・スクールソーシャルワーカー2人による家庭訪問などを行い、41件の事例に対応した。 ・相談所における来所相談件数は年間505件で電話相談は34件。面談回数は、保護者2,634回、子供1,123回で合計3,757回であった。 ・青少年相談 学校や都教育相談センター、保健所などの関係機関と連携しながら課題解決に努めた。 ・スクールカウンセラーとの連携 東京都が市内全小・中学校にスクールカウンセラーを配置しており、教育相談所のスクールソーシャルワーカー等を介し、連携を図った。	○	学校長からの要請により、スクールソーシャルワーカーが、不登校傾向の児童・生徒の家庭訪問を実施し、登校支援や家庭の悩み事の相談に応じ、状況を学校に報告した。これを受けて、学校ではスクールカウンセラーを交えて情報交換を実施するなど、学校との連携体制の充実に努めた。
	指導室	13 適応指導教室の充実	1 ふれあい学級 不登校児童・生徒に対し、生活習慣の確立および学習等の援助を行い、在籍校への復帰を支援します。 2 外国人児童・生徒学級 外国人児童・生徒および帰国児童・生徒に対し、日本語の指導を行い、安心して学校生活を送れるよう援助します。	・適応指導教室(ふれあい学級) 不安や悩みについての教育相談や習熟の程度に応じた学習指導を行うとともに、施設見学や料理教室の体験学習を3回実施した。 ・外国人児童・生徒学級 在籍児童・生徒数7人に対し、週2回の指導を実施した。	○	保護者の不安な気持ちに寄り添い、事前の面談の充実に努めた。また、児童・生徒の実態に応じて支援ができるよう、学校との情報共有を密にした。
	指導室	14 情報教育の推進	児童・生徒の情報活用能力を育成し、確かな学力の向上を図るために、教科指導におけるICTの活用を推進します。	ICT支援員を配置し、ICTを活用した授業の推進を図った。	○	ICT支援員の活動における授業支援の割合が増えてきている。
	指導室	15 芸術・技術教育の支援	「小学校造形作品展」、「中学校美術作品展」、「中学校美術作品展」、「中学校技術・家庭科作品展」を開催し、児童・生徒の豊かな心身の陶冶や芸術・技術能力の向上を図るとともに、広く市民に教科への理解を得ます。	・小学校造形作品展 会期 1月25日、26日 会場 青梅市立美術館 ・中学校美術作品展 会期 1月16日～19日、22日 会場 中央図書館多目的室 ・中学校技術・家庭科作品展 会期 2月6日～12日 会場 中央図書館多目的室	○	作品展に向けて、作品を製作する過程において自分なりに表現方法を工夫するなど豊かな情操を育むことができた。また、作品展を通して、自分の作品や他の作品の鑑賞をする中で、豊かな心情を養うことができた。
	指導室	16 スポーツ教育の振興	「中学校陸上競技大会」「中学校球技大会」「中学校駅伝大会」の開催を通して、精神力や体力を磨けるよう支援します。	中学校体育連盟各部との連絡・調整を図りながら、会場確保等の事務を行った。 ・中学校総合球技大会 実施期間 8月 会場 市民球技場ほか ・中学生東京駅伝大会への参加 実施日 2月2日	○	「中学校陸上大会」は、会場の改修工事に伴い中止とした。 また「中学校駅伝大会」は、台風19号の影響で、会場が使用不可となったことに伴い中止としたが、「中学生東京駅伝大会」へ向けての代表選手選出は、中学校体育連盟各部との連絡・調整を図りながら各校で進めるなど、できることを臨機応変に対応した。 事業自体は「代表選手になって大会に出場し、良い成績を収める」といった生徒のモチベーションにつながっている。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 小・中学校教育の充実	指導室	17 教員研修	教員の資質や能力の向上を図るため、職層や教職経験に応じた研修、専門的研修を実施します。	校長研修 2回 副校長研修 1回 教務主任会 5回 生活指導主任会 11回 若手教員育成研修1年次10回 若手教員育成研修1年次(宿泊研修)1回 若手教員育成研修2年次 3回 若手教員育成研修3年次 3回 市内視察研修 1回 中学校進路指導主任会 2回 新任主幹教諭研修 1回 人権教育研修 5回 学校教育相談研修 2回 情報セキュリティ研修(未受講者対象研修) 3回 情報セキュリティ研修(管理職等対象研修) 2回 特別支援教育理解研修 1回 教育経営研修 1回 情報教育推進委員会 2回 水泳指導研修 1回 普通救命講習 1回 教育課題研修 2回 中堅教諭等資質向上研修 I 8回 特別支援教育コーディネーター研修 2回 英語推進委員会 5回 食育リーダー連絡会 1回 柔道(武道)研修 1回	○	職層や教職経験に応じた研修等を実施することにより、教員の資質向上が図れた。
	指導室	18 教育研究支援	教育課題の解決、教科指導法の改善等の研究を支援し、より良い学校教育を目指します。 ・研究指定校、教育研究会、校内研修に対する支援	・研究指定校等への支援 小・中学校合わせて5校の研究を支援した。 ・教育研究会への支援 小学校3組・中学校3組が研究成果を発表した。 ・校内研修に対する支援 担当指導主事を中心に年間270回程度の指導訪問を実施した。	○	各校の研究を支援し、教員の資質向上が図れた。
	指導室	19 教科指導等の充実	1 新学力向上5カ年計画にもとづき、「やる気、根気、考える」をキーワードに、指導の充実を図ります。 2 「青梅市いじめ防止マニュアル」およびいじめ問題対策委員会調査部会からの提言にもとづき、いじめの根絶に向け、人権教育・道徳教育を充実します。 3 外国人英語指導助手(AET)を活用し、小・中学校の英語教育、国際理解教育を推進します。 4 地域社会・地域環境の理解を深め、社会の一員としての自覚を育てます。 5 児童・生徒の学力向上を図るため、市民センター等を拠点として、民間委託の指導者による土曜日補習教室を実施します。	1 教育委員会表彰をはじめ、習熟度別クラスや少人数クラスの実施、授業改善等、計画にもとづいた事業に取り組む、指導の充実を図った。 2 校内研修等によるいじめの定義等について、教職員の理解の徹底を図り、東京都の人権教育プログラムに沿った指導を行った。 3 英語教育、外国語活動を目的にAETを全校に派遣(年間1,200日程度)するとともに、英語推進委員会終了後にAET担当者会を開催し、AETの効果的な活用と指導についてを協議した。 4 地域人材を講師として招いたり、職場体験、協働活動等を通じて、地域への理解や帰属意識を育んだ。 5 国語、算数、数学の基礎的な学力の定着を図るため、土曜日の補習事業「サタデークラス」を市内6か所の市民センターで年17~18回実施するとともに、放課後等の補習事業「ステップアップクラス」を26校で実施した。	○	国・都の補助金を活用しながら、年間計画に沿った事業を実施できた。
	指導室	20 進路指導の充実	生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自分の意志と責任で進路を選択決定する能力・態度を育てます。	・進路指導主任会を年2回実施し、各学校におけるキャリア教育の円滑な推進について協議・研修した。 ・中学生を対象に、3日間の職場体験活動を実施し、勤労観や職業観を育成した。	○	進路指導およびキャリア教育を推進する中で、社会的自立・職業的自立に向けて必要な意欲・態度や能力を育てることができた。
	指導室	21 生徒指導の充実	豊かな人間性と社会性を育成するために、児童・生徒の基本的な生活習慣の確立を図り、規範意識を高め、公共心をはぐくみます。	・生活指導主任会(小・中学校)を年間5回実施し、情報交換や連携を深めた。 ・中学校生活指導主任連絡協議会を年間6回実施し、関係機関との情報交換や連携について協議した。	○	生活指導主任会や中学校生活指導主任連絡協議会での情報交換や他機関との連携を図りながら、豊かな人間性と社会性を育む取組を推進することができた。
青梅市立第二中学校	22 学校防災訓練	地域の消防団や消防署と連携し、実践的な防災訓練を行い防災の意識を高めます。	各地域の防災訓練に部活動単位で参加させていただいた。防災・安全教育の視点だけでなく、社会奉仕の精神を養う体験ができた。	○	中学生の防災対応能力の育成が求められる今、生徒の防災意識を高め、災害時に自ら臨機応変な判断や適切な行動を考える機会となった。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	23	PTAの活動への支援 会議室の提供、用具・備品等の貸出しなどを行います。 小・中PTAが主催する講演会や研修視察等に対する援助を行い、子どもたちの健全な成長を目指して、親と教師が協力して家庭・学校・地域の教育力の向上を図ります。	PTAが主催する講演会や研修視察等に対し、会議室の提供、用具・備品等の貸出しなどの支援を行った。	○	希望する日時に提供でき、PTA活動支援のため、一定の成果を上げることができた。
	社会教育課	24		・小学校・中学校のPTA活動を支援した。 ・用具・備品等の貸出しを行った。	○	青少年健全育成備品の貸出しや、PTA活動の支援を継続的に実施したため。
	市民センター	25	青少年委員活動 青少年が地域で健やかに成長できるよう、学校等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を行います。	・青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施(各市民センター) ・(青梅C)青梅っ子わいわいフェスタ、ミニ青梅マラソン大会、青梅地区親子ふれあい綱引き大会を実施 ・(長淵C)センター文化祭で青少年委員のブースを設置 ・(大門C)球技大会、社会を明るくする運動を実施 ・(沢井C)青少年が地域で健やかに成長できるよう、学校等とも連携し余暇指導、青少年指導者への協力および青少年団体の指導育成を実施 ・(沢井C)三田地区を見守る会事務局として、青少年指導者への協力、支援を行った。 ・(小曾木C・成木C共催)青少年委員の協力のもと、ジュニアキャンプ教室(1泊2日)、アイスクリーム作り体験教室を実施 ・(成木C)少年少女マラソン大会を実施 ・(東青梅C)青少年委員の協力のもと青少年の指導育成事業としてジュニアリーダー講習会を実施	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、もって地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援できた。 事務的、人的協力を行い各種行事の開催がスムーズに運ぶよう協力することができた。 青少年活動として各活動とも人気も高く喜ばれており、地域の方々の繋がりにも 寄与している。 青少年健全育成のため、各種事業への支援、協力を行い、一定の成果を上げることができた。
	社会教育課	26		・定例会12回(毎月第二火曜日) ・多摩第3ブロック研修 実施日 9月28日 会場 瑞穂中央体育館 バラスポーツであるポッチャを体験した。 ・委員研修 実施日 2月11日 会場 東青梅市民センター PA等の研修を実施した。 ・青少年リーダー育成研修会への協力 ・成人式への協力 ・自主事業の実施	○	各地域においてジュニアリーダー講習や子供会等に協力し青少年活動の指導を行った。 また、定例会を開催し、各地域での活動報告や自主事業の企画等を話し合った。 青少年の余暇指導のため各種研修を実施した。 自主事業を2回実施した。 青少年委員の周知を図るため広報紙「みらい」を発行した。
	市民活動推進課	27	協働事業の支援 行政と市民活動団体との協働事業を、青梅ボランティア・市民活動センターと連携して支援・推進します。	・青梅ボランティア・市民活動センターは、ボランティア・市民活動団体に関する総合的な相談窓口を設置し、情報の収集および発信、ニーズのコーディネート等、行政と市民活動団体との協働を推進している。 ・月1回の情報交換会を通して、協働事業や市民活動団体の活動状況等について情報共有した。 ・市民提案協働事業募集の周知等を青梅ボランティア・市民活動センターからも行うなどの連携を図った。 ・青梅ボランティア・市民活動センター職員が青梅市協働事業市民推進委員会委員として、協働事業の評価等について協議を行った。 ・市民活動団体向けの研修を組み、クラウドファンディング講座を青梅ボランティア・市民活動センター職員と協働で開催した。	○	令和元年度も青梅ボランティア・市民活動センターと連携し、様々な事業を通じて、協働事業の推進を図ったため
	子ども家庭支援課	28	青少年問題協議会 青少年の健全育成を目指して青少年健全育成基本方針の策定や様々な支援協力を行います。 「健全育成チラシ」や「休みのしおり」の作成などを行います。	・「青少年健全育成チラシ」を作成し、小・中学校、各市民センター、関係機関等に配付するとともに、全ての自治会に回覧を依頼した。また、「休みのしおり」を3回発行し小・中学校の児童・生徒に配布した。 ・協議会を以下の内容により2回開催した。 【実施日：7月5日】 平成30度青少年健全育成活動状況について 令和元年度青少年健全育成活動計画について 令和元年度青少年健全育成環境整備対策について 最近の少年非行について 情報交換 【実施日：2月13日】 令和元年度青少年健全育成活動状況について 青少年健全育成チラシについて 最近の少年非行について 情報交換	○	協議会の開催により、青少年指導、育成等に必要に関係行政機関相互の連絡調整が図られた。また、事業として健全育成チラシ等を作成し配布したほか、カラオケ店、ゲームセンター、コンビニエンスストア等の経営者に対し、青少年の非行防止と健全育成への協力について依頼し、青少年の健全育成環境整備対策に努めたため。 青少年健全育成チラシについては、市内の高等学校2校に各学級への掲示依頼を行った。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(3) 家庭・学校・地域の連携	市民センター	29	青少年の健全育成を目指して実施する様々な青少年対策事業に支援協力を行います。 「健全育成チラシ」の配付、「健全育成標語看板」の作製などを行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年対策事業の事務的支援および会議室の提供、備品の貸出等を行った。(各市民センター) ・青少年健全育成チラシを作成し、区内自治会、子ども会育成会に配布した。(各市民センター) ・(青梅C)青少年対策青梅地区委員会において、現青少年委員を常任委員と位置づけ、各種青少年対策等各種団体の連携調整および指導的役割を担った。 ・(長淵C)親子ふれあい綱引き大会を実施 ・(沢井C)青少年対策三田地区委員会事業である、「講演会」「みんなのゲームランドin沢井」「星空観察教室」などの青少年健全育成事業への支援を行った。 ・(小曾木C)黒沢川清掃活動をテーマにジュニアリーダー講習会を実施。青少年の社会参加を積極的に図った。 ・(小曾木C・成木C共催)青少年委員の協力のもと、ジュニアキャンプ教室(1泊2日)、アイスクリーム作り体験教室を実施 ・(成木C)少年少女マラソン大会を実施 ・(東青梅C)子どもの情報交換会、霞川清掃(中止)、第八支会主催のささえあいフェスティバル、第八支会ハイキング、自転車点検会および親子ふれあい綱引き大会を実施 ・(新町C)ドッジボール大会、体験学習バスツアー、親子いも掘り体験教室、天体観測会を実施 ・(河辺C)体験事業ジャガイモ掘り、多摩川1万人の清掃大会、健全育成標語看板清掃活動、防犯・安全パトロール、河辺市民センター文化祭の模擬店、河辺地区親子ふれあい綱引き大会を実施 ・(今井C)社会を明るくする運動講演会、ふるさとまつり・ふれあい動物まつりを実施 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年委員が単なる青少年対役員ではなく、専門的知識を有する者として、学校・家庭・地域の連携および青少年の余暇指導について、先頭に立って活動を行った。 ・事務的、人的協力を行い各種行事の開催がスムーズに運ぶよう協力することができた。また、青少年活動として行った各活動とも人気が高く喜ばれ、地域の方々の繋がりにも寄与するとともに、青少年健全育成として各種事業への支援、協力をし、一定の成果を上げることができた。なお、チラシの回収・配布を行い、青少年健全育成活動を地域ぐるみで取り組む大切さを啓発することができた。 	
	子ども家庭支援課	30	青少年対策地区委員会事業への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区における青少年の健全育成事業の推進を図るため、青少年対策各地区委員会に対し、補助金を交付した。補助金交付額計:2,000千円 ・青少年健全育成チラシの配布を行った。 ・第18回青梅市親子ふれあい綱引き大会を開催した。参加チーム数:47チーム、参加者数:1,000人(応援者を含む。) ・健全育成標語「見つめよう 子どもの様子 子どもの心」を策定し、看板作成を行なった。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年対策各地区委員会において、青少年の健全育成を目的とした各種事業を、事業実績報告書により確認したところ、前年度と同規模で実施されていたため。 ・青少年健全育成チラシについて、全小・中学生および関係機関に配布するとともに、自治会回覧により周知に努めた。また、市内の高等学校2校には、各学級に掲示の依頼をしたため。 ・親子ふれあい綱引き大会は、参加チーム数は、前年度より1チーム増加し、開催の目的は、概ね達成されたと考えたため。また、中学生で参加経験のある青年たちが一般の部で参加した。 ・健全育成標語は、88の標語案が各地区より提出され、2回の選定により決定された、各地区で看板設置を行なった。 	
	社会教育課	31	子ども会・保護者会等の学習活動への支援	子ども会・保護者会等の学習活動に対する支援を行い、青少年の健全育成を図ります。	用具・備品の貸出を行った。 子ども会への貸出し備品数は55件。	○	用具の貸出しのみならず、老朽化した備品については貸し出し状況を勘案しつつ、部品交換を行った。
	社会教育課	32	放課後子ども教室	スポーツや文化活動やさまざまな体験活動、地域住民との交流活動などを実施します。学ぶ意欲のある子どもにも、学習機会を提供します。	<ul style="list-style-type: none"> 吹上小学校を新規開設校とした計16校で、おうち放課後子ども教室「タやけランド」を実施した。また、各教室では放課後児童クラブと週1回程度の一体・連携開催を実施した。 ・第一小(全36回) 延べ参加人数 1,489人 ・第二小(全40回) 延べ参加人数 1,306人 ・第三小(全33回) 延べ参加人数 672人 ・第四小(全74回) 延べ参加人数 2,119人 ・第五小(全105回) 延べ参加人数 3,501人 ・第六小(全29回) 延べ参加人数 633人 ・第七小(全93回) 延べ参加人数 2,740人 ・成木小(全38回) 延べ参加人数 587人 ・河辺小(全27回) 延べ参加人数 1,071人 ・新町小(全17回) 延べ参加人数 913人 ・霞台小(全33回) 延べ参加人数 563人 ・友田小(全34回) 延べ参加人数 1,142人 ・今井小(全31回) 延べ参加人数 2,063人 ・若草小(全31回) 延べ参加人数 1,293人 ・藤橋小(全37回) 延べ参加人数 853人 ・吹上小(全22回) 延べ参加人数 372人 	○	新規開設校のタやけランド吹上小を9月から開始し、順調に実施することができた。また、放課後児童クラブとの一体・連携開催についても各教室で週1回程度の実施を行うことができた。
	社会教育課(図書館)	33	職場体験事業	職場体験学習として市内の中学生、高校生を受け入れ、図書館業務全般を体験します。	5月29日から12月10日にわたり、市内・市外の中学生および高校生を受け入れ、図書館業務全般について、体験学習を実施した。 中学校 8校 19人、高等部・高等学校 3校 9人	○	各学校からの要望により、中学校および高等部・高等学校を合わせて全11校、28人の生徒を受け入れた。
社会教育課(図書館)	34	図書館と学校図書館との連携事業	市内小・中学校の学校図書館に学校図書館司書を配置し、子どもたちの読書活動推進および学習活動の支援を行います。 また、中央図書館1日図書館長や講演会などの事業を実施し、子どもの読書活動を促進します。	<ul style="list-style-type: none"> 東小中学校を除く全小中校に、学校司書を学校図書館に配置し、4月22日から3月17日まで、週1回4時間間延べ910回の学校支援を行った。 学校連携推進重点校事業については、対象校の第四小学校の児童4人が9月14日に中央図書館一日図書館長として参加した。また、10月17日に講演会「はなさかじいさん」読み聞かせを第四小学校で開催し、476人の参加があった。 	○	各校の学校図書館整備や展示などの読書喚起を行い、延べ910回の学校支援が行えた。 また、学校連携重点校事業においては、児童の図書館や読書体験を豊かにする読み聞かせ講演会を開催し476人の参加を得た。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) 家庭・学校・地域の連携	指導室	35	地域の優れた人材を掘り起こし、地域と学校が連携協力し、子どもたちの健全育成に活用します。	地域人材をゲストティーチャーとして招き、総合学習等で講師をお願いした。 また、保護者や地域の方のボランティアにより、図書室の整備等が行われた。	○	地域人材を活用することにより、各学校の特色を生かした教育活動の充実を図ることができた。 図書室整理・学習支援・安全パトロールなどで、なくてはならない存在となっている。 地域・保護者の観点から、よりよい教育活動充実のための意見交換ができています。
	社会教育課	36		・楽しい先生が教える！水墨画教室(72人) ・初心者菊作り講習会(16人) ・国際理解講座特別講座～茶道教室～(37人) ・大きな声でストレス解消！はじめての吟詠体験(22人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 4講座 147人	○	講座の講師のほか、地域の人材を放課後子ども教室で活用した。

2 生涯学習の場と機会の拡充

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(1) 施設の整備と有効活用	スポーツ推進課	37	生涯スポーツの普及・発展、市民の健康と体力の増進を図るため、小・中学校の体育施設(校庭・体育館)を市民スポーツ団体の利用に供します。 生涯学習推進のため、小・中学校の音楽室を団体やサークルの利用に供します。	登録団体 209団体 利用回数 5,819回 利用人数 133,349人	○	市内の団体への貸出を行うことで、レクリエーションの場としての施設の活用を図った。 利用団体への利用に関するマナーの徹底や近隣住民への事業実施に関する理解促進について引き続き課題が残る。	
	社会教育課	38	学校施設開放	登録団体:今井小学校2団体、第二中学校2団体 利用回数:今井小学校3回、第二中学校0回 利用人数:今井小学校45人、第二中学校0人	○	前年度に行う利用団体登録の広報を、広報おうめへの掲載だけでなく、HPへの掲載も行った。 前年度は利用実績がなかったが、令和元年度は利用実績があった。	
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	清掃サイクル課	39	多摩川1万人の清掃大会	8月4日に市内多摩川流域18会場において多摩川1万人の清掃大会を実施した。 2,152人が参加し、870kgのごみが集まった。	○	多くの市民の参加により河川の美化活動が行われると同時に河川の環境美化の意識の高揚が図れた。	
	清掃サイクル課	40	河川清掃活動援助	多摩川以外の河川で行われる清掃活動への消耗品の援助を行います。 成木川、黒沢川、霞川等の河川における自治会等の清掃活動に対し、使用する軍手、ゴミ袋、タオルを提供した。	○	河川における自治会等の清掃活動への支援を行うことにより美化活動の啓発を図った。	
	高齢者支援課	41	福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者が趣味を広げ、教養を深められるよう各種講座を開催します。活動の成果を発表する場として、高齢者教養講座合同文化祭を開催します。 (対象:60歳以上の方)	高齢者教養講座を5講座実施した。 詩吟 年22回 17人 毛筆 年17回 19人 ペン習字 年17回 12人 茶道 年22回 15人 華道 年16回 8人 令和元年度高齢者教養講座合同文化祭開催 会場 福祉センター 参加者 326人	○	高齢者教養講座は、生きがいのある生活や高齢者の外出支援となっており、また、成果を発表する場である文化祭を開催したことで、地域とのふれあいにつながり、高齢者活動のPRとなった。
	高齢者支援課	42	地域保健福祉センター高齢者教養講座の開催	高齢者の生きがい、健康増進、教養を高めることを目的に、沢井・小曾木保健福祉センターでは、各種教室を開催します。 (対象:60歳以上の方)	高齢者教養講座を4講座実施した。 沢井保健福祉センター 茶道 年27回 16人 華道 年18回 14人 小曾木保健福祉センター 絵画 年29回 13人 合唱 年26回 37人	○	生きがいのある生活や高齢者の外出支援として効果的であり、地域高齢者のふれあい・親睦の場となった。
	高齢者支援課	43	敬老会	75歳以上の方を総合体育館に招待し、式典・演芸を行い、長寿をお祝します。 (対象:75歳以上の方)	75歳以上の高齢者を対象に敬老会を開催した。 開催日 9月28日(土) 会場 総合体育館 参加者 1,924人	○	地域高齢者のふれあい・親睦の場となっており、発表者や芸能人を見るために参加する高齢者の外出支援にもつながった。
	商工観光課	44	観梅市民まつり	平成28年度に梅の再植樹が開始、3月には吉野梅郷梅まつりが復活しました。 中旬に行われる「観梅市民まつり」では、パレードや地元郷土芸能の披露などが行われ、多くの市民が出演者もしくは観客として参加し、おまつりを盛り上げています。	令和元年度の「観梅市民まつり」は、新型コロナウイルス感染対策のため中止した。	-	新型コロナウイルス感染対策のため、「観梅市民まつり」を開催することができなかった。
商工観光課	45	後援等協力事業	青梅市の産業や観光を知り、自然に親しむ機会や参加者同士の交流が図れる機会として、産業観光関連のイベントに協力します。 ・産業観光まつり、カンタンを聞く会	・第52回青梅産業観光まつり 実施日 11月2日(土)、3日(日) 会場 永山公園グラウンド 参加者 49,500人 ・第64回カンタンをきく会 実施日 9月7日(土)~8日(日) 1泊2日 会場 御岳山 参加者 93人	○	青梅産業観光まつりは、前年度に引き続き、市民参加型のステージ数は控えめにし、特別協賛によるイベントや学校関係の招待枠を拡充した。前年度を超える来場者があり、盛況に開催された。 御岳山では、秋虫の女王、鳴虫の女王と云われる「カンタン」の大合唱をきくことができます。万葉の昔から人々に親しまれる美しい鳴き声は、「カンタンをきく会」の参加者に秋の気配を感じさせるとともに、四季の移り変わりを体感させてくれる。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2)豊かに生きるための学習機会の充実	商工観光課	46 昭和レトロ商品博物館	商店街空き店舗活用推進事業として、平成11年に住江町に開館した博物館。昭和30～40年頃のお菓子や菓などの商品パッケージを中心に、昭和を彩った懐かしい商品文化をお楽しみください。2階には、小泉八雲作の「雪女」と関わりのある資料を展示。	・昭和レトロ商品博物館 入場者数 13,079人	○	商店街の活性化、空き店舗をなくすことを目的にされた商店街活性化事業であり、商店街の景観維持の意識やまちづくり意欲を高めるとともに、青梅中心市街地の観光スポットのひとつとして、来街者の集客に大きな効果があった。
	商工観光課	47 青梅赤塚不二夫会館	商店街振興事業として、住江町商店街振興組合が、青梅駅周辺商店街の賑わいを創出するため、平成15年10月に開館。明治時代後期の蔵に昭和を代表する漫画家「赤塚不二夫氏」の原画や貴重な写真などを展示。	・青梅赤塚不二夫会館 入場者数 14,921人 ・青梅赤塚不二夫会館 16周年企画「赤塚不二夫と菊千代展」 実施日 令和元年11月19日～12月15日 会場 青梅赤塚不二夫会館 来場者 2,000人	○	日本のアニメやマンガがクールジャパン・コンテンツとして世界的に注目され、国内外には多くのファンが存在する。青梅赤塚不二夫会館は、アニメ・マンガの聖地のひとつとして、一般社団法人アニメツーリズム協会に選定され、広域周遊観光ルートとして新たな経済効果を創出している。 近年、赤塚不二夫のアニメ作品が続けてリメイクされるなど人気が再燃し、遠方から青梅へ訪れる観光客も増え、住江町商店街のみならず、青梅全体の商店街の活性化に繋がった。
	農林水産課	48 シイタケ栽培講習会	農業への理解を深め、収穫の喜びを体験していただくための講習会を開催します。	開催日:2月15日 参加者数:65人 内容:ほだ木の穴あけから種ゴマの打ち込みまでの実技と育成管理指導を行った。	○	ほだ木の穴あけから種ゴマの打ち込みまでの実技を体験し、シイタケの育成講習を受け、農業への理解を深めることができた。
	農林水産課	49 青梅市農業祭	市内の農畜産物の展示や直売などにより、農業への理解と関心を深めてもらうとともに、参加者同士のふれあいの場を提供します。	開催日:11月2日、3日 会場:永山運動場 内容:農産物共進会、野菜等の直売会	○	農産物共進会や野菜等の直売会などにより、農業への理解と関心を深められた。また参加者同士のふれあいの場を提供できた。
	農林水産課	50 炭焼き体験教室	豊かな緑、豊かな水の原点は森にあることに着目し、炭焼きの実践や木々の観察、木工等総合的な自然体験学習を行います。	開催日:12月7日 会場:花木園 参加者数:森林ボランティア受講生15人および家族6数人、一般参加者10人 合計31人 内容:森林ボランティア育成講座と炭焼き教室として一般募集した市民との合同で炭焼き体験教室を実施した。その後、ネイチャークラフト教室も実施した。	○	参加者も例年より多く竹林間伐した材を炭焼き窯の大きさに合わせて切断し釜の中へ投入し点火までを行い。炭ができるまでの流れを写真を使い説明し皆真剣に聞いていた。午後のクラフト教室ではどんぐりなどの山の恵みを使い有意義な教室となった。
	社会教育課	51 成人式	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い、励まします。 1月第2月曜日(成人の日) 総合体育館ホール	実施日 1月13日 会場 総合体育館 出席者数 1,012人 昨年度に続き新成人インタビューを実施し、プロジェクターを通して会場内へ流した。写真撮影コーナーを設けた。新しい試みとして、中学校の先生からのビデオレターを上映した。 誓いの言葉を行った新成人がライフセービング選手であり、紹介のビデオ上映を行った。	○	ここ数年の中では高い出席率であった。式典は比較的静かに厳かに行われた。
	社会教育課	52 掌理団体定期演奏会等	・青梅児童合唱団定期演奏会 ・青梅市青少年吹奏楽団定期演奏会 ・青梅市民合唱団定期演奏会 ・ファミリーコンサート ・ミニコンサート	・青梅児童合唱団 ミニコンサート 8月22日 観客数 60人 定期演奏会 9月8日 観客数 250人 ・青梅市青少年吹奏楽団 定期演奏会 12月15日 観客数 300人 ・青梅市民合唱団 ミニコンサート 8月26日 観客数 50人 定期演奏会 12月28日 観客数 300人 ・ファミリーコンサート 3月28日 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止。	○	各掌理団体はそれぞれ定期演奏会を行い、児童合唱団と市民合唱団は市役所2階姉妹都市コーナーでミニコンサートを行った。その他各団体自主的に対外演奏活動を行っており、日頃の練習の成果を市民に発表することができた。
	社会教育課	53 市民大学	人文・社会科学・自然科学・産業技術・芸術文化・市民生活・国際関係等の中から現代的課題に対応する学習機会を提供していきます。	・特別展「国宝 東寺一空海と仏像曼荼羅」関連文化講演会(164人) ・特別展「出雲と大和」関連文化講演会(175人) 合計 2講座 339人	○	NHKの企画展関連文化講演会を利用した。参加者からは非常に好評であった。今後も様々な分野の講座をバランスよく企画していく。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課	54 農業食育体験教室・ふれあいまつり販売体験	野菜の栽培や収穫、調理までの作業を体験し、農作業への関心を持ち理解を深めることを目的に、半年間の体験教室を行います。ふれあいまつりに参加し、野菜の販売体験を行います。 ・東京都農林水産振興財団・青梅食育クラブ 共催事業	農業・食育体験教室として全9回の講座を実施し、農業や食育について学んだ。また講座の中で河辺ふれあいまつりに参加し、講座で育てた野菜を販売する体験を行った。 農業・食育体験教室 延べ参加人数 423人	○	収穫以外の農作業を体験し、また作ることで食べることのつながりを学ぶために料理教室や試食だけではなく、販売体験も行った。参加者同士の交流をさらに促進し、体験活動の充実を図る。
	社会教育課	55 豊かに生きるための教室・講座等の実施	趣味を広げ、知識・教養を深め、参加者同士の交流を広げるため、人生を豊かにする教室・講座等を開催します。	・1時間の小さな演奏会(144人) ・飛び出せ！夏のサイエンスキッズ3講座(38人) ・飛び出せ！サイエンスファミリー(39人) ・テレビマンと学ぶ！テレビ朝日出前講座「体験してみよう！～テレビの仕事～」(25人) ・子どもに、孫に、私のために！～作ってみよう！手作りパン～(21人) ・笑ってタメになる！善ちゃんのサイエンスショー(500人) ・国際理解講座公開講座(61人) ・初心者の菊作り講習会(16人) ・おいでよ！みんなのあそびばへ フォークギター講座(48人) ・大きな声でストレス解消！はじめての吟詠体験(22人) ・国際理解講座特別講座3講座(94人) ・キッズ☆体験教室6講座(123人) ・手影絵ワークショップ(66人) 青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 ・秋の芸術講座2講座(107人) ・ストーリーテラーと影絵劇～生きた影絵の物語～(62人) ・初めてのダンス～パブリカ～を踊ろう！！(31人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 26講座 1,397人	○	幼児教育から成人教育まで幅広く行い、その形態も講演会形式、体験型など様々な形で行った今後も様々な講座をバランス良く企画する。
	社会教育課	56 16ミリ発声映写機・ビデオプロジェクター操作講習会	映写機の操作方法、映写方法、映写会場の作り方などを学ぶ講習会を実施します。	・ビデオプロジェクター操作講習会 6月28日、2月27日実施 計10人修了 ・16ミリ発声映写機操作講習会 新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止	○	ビデオプロジェクター操作講習会は、6月28日に4人、2月27日は6人の参加があった。
	社会教育課(図書館)	57 中央図書館講座等	図書館の広報と利用者サービスの拡充を図るため、原画展や講演会などを実施します。	市民の教育と文化の向上を図るための学習機会を提供するため、次のとおり各事業を実施した。 ○展示 ・ハンディキャップコーナー資料展示(2階フロア)4月1日～3月1日 4回 ・資料展示(3階フロア) 4月1日～3月1日 45回 ・児童コーナー資料展示(3階フロア) 4月1日～3月1日 25回 ・資料展示(4階フロア) 4月1日～3月1日 8回 ・分館資料展示(9分館) 4月1日～3月1日 473回 ○講座 ・すばらしい紙芝居と演じ方講座 10月13日、10月20日 参加人数16人 ・やっちゃんのジャズ講座 12月21日 参加人数40人 ○朗読会 ・この指とまれ朗読会 5月25日 参加人数53人 ・朗読で楽しむ古典の世界「遠野物語と賢治」12月1日 参加人数92人 ○釜の淵新緑祭おはなし会 5月12日 参加人数26人 ○学校図書館ボランティア ・修理講習会 6月12日～10月9日 参加人数28人 ・ボランティア読み聞かせ講座 6月24日 参加人数 18人 ○青梅市図書館を使った調べるコンクール ・応募作品数 小学生の部:390作品 中学生の部:144作品 ・表彰式 12月7日 ・調べる学習相談窓口 7月26日～8月16日、「調べてみよう！青梅の生きもの」講習会 7月26日 参加人数10人	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催事業「青梅市図書館利用者懇談会」の開催はできなかったが、11か月間に定期的な展示やさまざまな講座、催し物を開催し、図書館や図書に親しむ機会を提供できたとともに多くの参加者を得ることができた。
	社会教育課(図書館)	58 中央図書館での工作及び手芸教室	工作などを通じて手作りの楽しさ、創造することのおもしろさを体験する各種教室を実施します。	・中央図書館工作教室 8月9日、8月10日 2回 30組 ・分館図書館工作教室 4月7日～2月22日 36回 参加者734人	○	分館における事業開催回数を増やし、身近な分館図書館に親しむ機会を増やすことができた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	社会教育課(図書館)	59 中央図書館での上映会	中央図書館多目的室において、映画会を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ・映画会 4月28日～2月23日 11回 参加人数 572人 ・子ども映画会 5月4日～12月22日 5回 参加人数 257人 ・バリアフリー上映会 11月30日 参加人数 35人 ・アルツハイマー月間上映会 9月16日 参加人数 63人 	○	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催事業は中止したが、11か月間事業を実施し、多くの参加者を得ることができた。</p> <p>子ども映画会の回数を増やしたことにより、参加者が増加し、子どもや保護者が図書館に親しむ機会を提供できた。</p>
	文化課(郷土博物館)	60 展示・普及事業	<p>青梅市の歴史や自然を紹介する常設展のほか、郷土の歴史や文化財などをテーマとした企画展等を年3～4回程度開催します。</p> <p>また、企画展等に関連した講演会、解説講座を開催します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・常設展「郷土のあゆみ」 4/1～3/31(通年) ・企画展「青梅市の文化財住宅～民家と町屋のしくみ～」 会期 4/1～4/7 観覧者数 688人 ・企画展「甲冑武具展～青梅ゆかりの品々を中心に～」 会期 4/20～6/16 観覧者数 4,639人 ・企画展「青梅のいきもの～みんなつながっている～」 会期 6/29～9/23 観覧者数 3,345人 ・企画展「青梅の織物～糸が紡ぐ今と昔～」 会期 10/5～1/13 観覧者数 4,172人 ・「新収蔵品展2019」 会期 1/25～3/31 観覧者数 2,901人 ・企画展関連講座「御嶽の鎧をめぐる～近代御嶽甲冑研究史～」 実施日 5/18 講師 齋藤 慎一 参加者 53人 ・「企画展甲冑武具展の展示解説講座」 実施日 6/9 講師 齋藤 慎一 参加者 26人 ・「夜のいきもの観察会と展示解説」 実施日 8/31 講師 久保田 繁男 参加者20人 ・企画展関連講座「御岳山のいきものがたり」 実施日 9/1 講師 林 慶二郎 参加者32人 ・企画展関連講座「大正末期における府是製糸株式会社の設立過程」 実施日 12/7 講師 沖川 伸夫 参加者37人 	○	<p>年4回の企画展等を開催し、令和元年度の総来館者数は17,274人となり、昨年度の17,416人より144人下回った。</p> <p>企画展「甲冑武具展」では、一般社団法人日本甲冑武具研究保存会の協力を得て、会員が所有する資料も数点出品していただき、展示内容の充実が図れた。</p> <p>企画展「青梅のいきもの」では、市内に生育・生息する動植物を紹介したほか、新たに市が策定した「青梅ひとと生き物イキイキプラン」について周知することができた。</p> <p>企画展「青梅の織物」では、青梅織物工業協同組合の御協力により、約30年ぶりに青梅織物に関する展覧会を開催することができ、市民をはじめ、多くの来館者に青梅織物の歴史的価値について、再認識していただく機会とすることができた。</p> <p>また、企画展のテーマに関連した講座や展示解説を開催し、それぞれの企画展の理解を深めることができた。</p>
	文化課(郷土博物館)	61 文化財の調査・保護・活用	埋蔵文化財の調査を実施するほか、指定文化財の保存事業として、修理補助や報償金の支給を行います。また、指定文化財住宅の公開イベントなど活用に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ○開発などに伴う埋蔵文化財確認調査5件 ○文化財保存修理補助事業 ・国指定重要文化財「観音寺本堂ほか2棟」防災設備の改修 補助額 2,846千円 ・東京都指定天然記念物「塩船観音の大スギ」避雷針の修繕 補助額 228千円 ・東京都指定史跡「海禅寺境域」台風被害の復旧 補助額 2,356千円 ・青梅市指定史跡「武蔵御嶽神社」皇御孫命社・東照社の修理 補助額 995千円 ・都指定史跡「天寧寺境域」台風被害に伴う境域法面保護工事 補助額 - 	○	<p>埋蔵文化財の確認調査は、開発などによって破壊される前に実施し、遺跡の内容を把握することができた。</p> <p>文化財保存修理補助事業は、保存修理費の一部を補助することによって文化財所有者の負担を軽減するとともに、文化財を保存し後世に伝えることができた。</p> <p>また、台風被害により実施した指定文化財の災害復旧事業についても、補助金を交付するとともに、東京都単独の補助事業についても支援することで、所有者の負担を軽減することで、文化財を保存することができた。</p>
文化課(郷土博物館)	62 文化財の普及・啓発	市内にある文化財等の解説を広報などに掲載します。また、文化財めぐりを実施したり、文化財解説ボランティアの育成などに取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> ・「青梅市の文化遺産」市広報毎月15日号に掲載 ・「青梅市文化財ニュース」毎月15日発行 ・「文化財保護指導員活動報告書」毎年発行 ・「わがまち青梅講座」の開催(6/8、9/28、11/3) ・ボランティア育成講座の開催 	○	<p>毎月発行している「青梅の文化遺産」「青梅市文化財ニュース」では、市内の文化財について紹介することで、広く周知することができた。</p> <p>また、「わがまち青梅講座」では、現地で文化財の紹介や解説などを実施することで、参加者により深く文化財を理解していただくことができた。</p> <p>博物館解説ボランティアについては、近隣博物館の見学会等を行い、ボランティアの育成を図った。</p>	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 豊かに生きるための学習機会の充実	文化課(美術館)	63 展示・普及事業	<p>テーマに沿った特別展や企画展、共催展として年4～5回、美術展を開催します。</p> <p>青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品を年4～5回程度展示替えし、紹介します。</p> <p>また、美術館のほか、市役所2階の展示スペースを活用し、年3回展示替えをし、紹介します。</p> <p>実技講座、美術講演会、ギャラリーガイド等を実施し、美術への関心を深めていただきます。</p>	<p><美術展の開催></p> <p>・館蔵企画展「生誕100年 佐藤多持展」1作家63点 会期 4/6(土)～5/26(日) 観覧者数 1,207人</p> <p>・特別展「中島潔 新しい風ー希望 明日へ生きるー」1作家78点 会期 6/22(土)～9/1(日) 観覧者数 5,266人</p> <p>・館蔵企画展「裸体画の誘惑」14作家74点 会期 9/14(土)～11/4(月・休) 観覧者数 981人</p> <p>・共催展「アートビューイング2019 ARTの地産地消」30作家81点 会期 11/16(土)～1/13(月・祝) 観覧者数 1,853人</p> <p>・共催展「青梅市小学校造形作品展」約1,000点 会期 1/25(土)、26(日) 観覧者数 2,785人</p> <p><小島善太郎、藤本能道の作品展示></p> <p>青梅市ゆかりの作家小島善太郎、藤本能道の作品をコレクションから適宜選り出し、常設展示コーナーに両作家の作品を、企画展等の日程に合わせて、毎回4点程度展示した。なお、本年度の展示替えの回数は4回であった。</p> <p>また、市役所2階展示コーナーに小島善太郎、藤本能道の作品を展示した。年3回展示替えした。</p> <p><実技講座等の開催></p> <p>・鑑賞講座「作家によるギャラリートーク&サイン会」(一般対象) 講師 中島 潔 氏 実施日 8/4(日) 参加者 ギャラリートーク 124人 サイン会 57人 計181人</p> <p>・親子向け実技講座「デコトラづくり」(3歳以上の子どもとその保護者対象) 講師 美術館職員 実施日 8/11(日) 参加者 1回 10人 2回 10人 計20人</p> <p>・実技講座「ワークショップ」(一般対象) 講師 青梅夜具地 夕日色の会ほか 実施日 11/24(日)以下4回 参加者 計32人</p> <p>・鑑賞講座「美術鑑賞教室」(河辺小児童対象) 講師 鈴木青氏(羽村市工芸美術学習コーディネーター) 実施日 12/6(金) 参加者 71人</p>	◎	<p>美術展については、年間を通じて、さまざまなジャンルや切り口の展覧会を開催することが出来た。</p> <p>企画展においては、各回ごとにテーマを定め、館蔵品を有効に活用した展覧会を開催した。それぞれ大きく趣の変わった展覧会として開催できたことで、様々な市民ニーズに応えることが出来た。</p> <p>特別展においては、知名度の高い作家の展覧会を提供した。当初目標を大きく超える来館者を得るとともに、アンケート結果から来館者の満足度は総じて高く、期待に応えることが出来た。</p> <p>共催展においては、「アートビューイング2019ーARTの地産地消ー」では、当館での展覧会として初めて西多摩の作家たちと連携し作品展示を行った。「青梅市小学校造形作品展」では、青梅市内の各小学校の児童が制作した、図画工作作品を展示し、作品展に出品された児童とその家族が多く鑑賞に来られ大変好評だった。</p> <p>小島善太郎、藤本能道作品については、美術館のほか、市役所2階展示コーナーを使用し、展示替えを行うことによって、多くの収蔵作品を市民に紹介した。</p> <p>実技講座等については、開催時期にあわせた企画を検討し、市民に提供することが出来た。</p> <p>鑑賞講座「作家によるギャラリートーク&サイン会」においては、特別展開催期間内に、作家である中島潔氏によるギャラリートーク、サイン会を行い、多くの参加者があり大変好評だった。</p> <p>親子向け実技講座「デコトラづくり」を夏休み時期に実施し、多くの親子に工作の楽しさを体験していただくとともに、講座を通じ親子の触れ合いの機会を提供した。</p> <p>そのほか、実技講座「ワークショップ」鑑賞講座「美術鑑賞教室」については、共催展「アートビューイング2019ーARTの地産地消ー」に参加する作家の協力により、地域住民や学校教育との対話、交流が図れた。</p>
	選挙管理委員会	64 明るい選挙推進講演会	<p>明るい選挙を推進していく観点から、明るい選挙推進委員および一般市民を対象に、講演会を開催します。</p>	<p>以下のとおり講演会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大予防対策として中止となった。</p> <p>日程:3月14日 演題:「五日市憲法について」 講師:専修大学元教授 新井 勝純 氏</p>	-	
	農業委員会	65 親子農業体験会	<p>田植え・稲刈りといった農作業を体験していただき、市民と市内農業とのふれあいを図ります。</p>	<p>田植えは6月15日、稲刈りは10月12日を予定していたが、雨天により、中止した。収穫した米については、参加申込者に配布した。</p>	△	雨天により中止したが、予備日を設けるなど極力実施していきたい。
	商工観光課・青梅市観光協会	66 蛍を見る夕べ	<p>成木川に発生する蛍の鑑賞会を開催し、保護育成に関する啓発パンフレット等を配布し、蛍の生育する環境についての理解と関心を高めます。</p>	<p>蛍の保護育成活動を行う方々を蛍保護指導員として委嘱し、指導員会議にて意見交換や情報共有を行ったうえで事業に参加していただいた。指導員には参加者へ必要に応じた蛍の生態等を説明していただいた。</p>	○	指導員ごとに担当地区を分担して蛍の生育状況等を調査していただき、指導員会議で結果を発表し意見交換を行うことで、指導員自身の学習機会や生きがいにつながったと考える。
	社会教育課	67 生涯学習フェスティバル(釜の淵新緑祭)	<p>新緑の釜の淵公園・郷土博物館・旧宮崎家・釜の淵市民館を生生涯学習サークルの発表の場とし、楽しいイベントを通じた市民の交流の場とします。</p>	<p>生涯学習フェスティバル～釜の淵新緑祭2019～ 実施日 5月11日、12日 会場 釜の淵公園および周辺施設 延べ参加人数 3,830人</p>	○	41イベントを実施した。実行委員会形式による開催で、準備や片付けなども実行委員協力のもと行った。
文化課	68	生涯学習フェスティバル(釜の淵新緑祭)	<p>郷土博物館、旧宮崎家住宅を、生涯学習サークルの発表の場として提供した。</p>	○	実行委員会協力のもと、会場準備、開催を実施し、発表の場としてスムーズに実行できた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
（3） ともに生きるための学習機会の充実	秘書広報課	69 国際交流活動支援	国際交流団体の国際交流事業に対する補助（国際交流基金）等の支援を行い、活動の活性化を目指します。	市内の国際交流団体に対して補助金を交付した。 ・海外派遣事業 1団体 ・語学研修事業 3団体 ・文化交流事業 1団体	○	ドイツ語、中国語の語学研修に加え、市内在住外国人の交流の場として実施している国際交流の広場へ補助を行い、市民の国際交流の推進の一助となっている。 また、青梅日独交流協会が実施した姉妹都市ポッパルトをはじめとしたドイツ連邦共和国への研修旅行に対して補助を行った。
	秘書広報課	70 通訳ボランティア	青梅マラソン大会参加外国人選手の通訳を、ボランティアの協力を得て、国際的な交流の輪が広がるよう支援します。	英語通訳ボランティア3人の協力を得て、ゼッケンの引き換えなどの際に支援を行った。 北京市民招待選手団の青梅マラソン大会参加への支援を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、招待選手が不参加となったため、外国人招待選手への支援は行わなかった。	○	新型コロナウイルス感染症の影響により、海外招待選手への支援は行えなかったが、大会参加者のゼッケン引き換えなどについて、英語通訳ボランティアが支援を行った。
	市民安全課	71 平和の写真展の開催	世界の恒久平和を希求することをテーマとした写真展を開催し、市民が平和について考える機会とします。	・セーブ・ザ・チルドレン写真展「～紛争下を生きる子どもたち～」 実施日 1月29日～2月4日まで 会場 青梅市中央図書館 入場者数 452人 ・平和講演会「セーブ・ザ・チルドレン平和講演会」 実施日 2月1日 会場 市役所2階会議室 参加者数 42人	○	世界の恒久平和の実現を願い、また、平和の尊さを再認識するため、セーブ・ザ・チルドレンが戦時下の子どもたち等を撮影した写真展およびセーブ・ザ・チルドレン職員による講演会を実施し、多くの市民等に対し広く周知することが出来た。
	市民活動推進課	72 男女平等講座の開催	男女平等参画の視点に立った講座を実施します。	男女平等参画の意識啓発のため、各種の啓発講座を開催するとともに、「市民のくらし展」や市役所・市民センター等でパネル展を実施し、啓発を図った。	△	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できなかった講座がある。今後、感染症予防の対策を講じた講座の開催を検討する必要がある。
	市民活動推進課	73 女性の就業支援	働く女性の能力開発および就業意欲向上のための講座を開催し、情報提供を行います。	・ハローワーク青梅および商工観光課と共催で、これから働こうとする女性を対象とした「女性の再就職支援パソコン講座（ワード・エクセルの基本操作やメール文章作成等）」を開催した。7月2日～13日（全4回）参加人数：48人 また、商工観光課と共催で、働く女性を対象とした「働く女性のスキルアップパソコン講座（エクセル関数）」を開催した。11月6日～15日（全4回）参加人数：65人	○	講座について、前年度の実施状況を踏まえて内容の充実を図り実施した。
	市民センター	74 老壮大学	教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講演会・講習会を行います。青梅老壮大学、調布ことぶき大学、霞老壮大学、梅郷老壮学園、小曾木老壮大学、東青梅老壮大学、河辺老壮大学	・（青梅C）（青梅老壮大学）教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために各種講座、学芸祭、研修視察等を開催した。延べ参加人数：683人 ・（長淵C）（調布ことぶき大学）講演会、芸能大会、日帰り研修等の行事を開催した。延べ参加人数：516人 ・（大門C）（霞老壮大学）講演会、日帰り見学会、修学旅行を開催した。延べ参加人数：947人 ・（梅郷C）（梅郷老壮学園）講演会、日帰り研修、芸能大会、文化祭参加等7回開催した。延べ参加人数：609人 ・（小曾木C）（小曾木老壮大学）各種講座、講演会、日帰り研修等を12回開催した。延べ参加人数：386人 ・（東青梅C）（東青梅老壮大学）教養の向上と生きがいづくり、心身の健康増進のために講演会・研修旅行等の事業を開催した。延べ参加人数：629人 ・（河辺C）（河辺老壮大学）各種講座、講演会、日帰り旅行等を開催した。延べ参加人数：541人	○	老壮大学の運営にも学生自ら参加することにより自主性がめばえ、また多方面にわたる講座を計画実施することにより、教養の向上や生きがいづくりに貢献している。
	福祉総務課	75 社会を明るくする運動	人々が互いに助け合い、希望を持って生きることのできる明るい社会を目指して、座談会やチラシの配布など啓発事業を行います。	青梅市推進委員会を開催し、年度内の取り組み内容を決定した。 5月19日実施の第50回おうち健康まつりでティッシュと絆創膏の配布を行い、運動のPRを実施。強調月間中の7月1日、市役所に集合し推進委員長のあいさつのうち、保護司や地域の中学生による啓発活動を、JR青梅線の河辺駅、東青梅駅、青梅駅で実施。 また、各地域で保護司や青少年対策委員等の協力を得て、市内の市民センター等でミニ集会や座談会を開催し、啓発活動を実施した。市民プールや図書館においてもPR活動を実施した。	○	法務省主唱の全国で実施されている行事で、青梅市においても、教育委員会、西多摩地区保護司会青梅分区、青梅警察署、青梅防犯協会、青梅市社会福祉協議会、自治会連合会、教育関係機関など24団体で推進委員会を組織し、7月以降様々なイベントを行って、啓発活動を行うことができた。 特に、駅頭でのPR活動や、市民センター等でのミニ集会で多くの市民に事業の内容を周知できた。
	高齢者支援課	76 家庭介護DVDの貸出し	在宅の介護者やボランティアの方々の活動を支援するために、介護等のDVDを無料でお貸します。	家庭介護のためのDVD等の貸し出しを行った。 利用者数 2人 利用本数 2本	△	利用者が少なく、またDVDの内容も古くなっているため。
	高齢者支援課	77 認知症サポーター養成講座	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する、認知症サポーターを養成するための講師を派遣します。また、認知症サポーターに対し、ステップアップ講座を行います。	認知症に関する正しい知識を持ち、地域や職域において認知症の人や家族を支援する認知症サポーターを養成することにより、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりを推進した。 令和元年度講座受講認知症サポーター数 合計736人	○	認知症サポーターを増やし、認知症の人や家族が安心して暮らし続けることができる地域づくりに取り組んだ。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) ともに生きるための学習機会の充実	高齢者支援課	78 家族介護教室	高齢者を介護している家族等を対象として、介護方法や介護予防、介護者の健康づくり等の知識・技術を修得する教室を開催します。	「認知症の患者・家族から学んだいのちのかけがえのなさ」 実施日：2月20日 参加人数：55人 講師：佐藤猛氏（菜の花クリニック）	○	認知症の高齢者を介護している家族等が多く参加された。認知症患者・家族とのエピソードを踏まえた身近で分かりやすい講演で、参加者からは好評を得られた。
	障がい者福祉課	79 手話講習会事業	福祉に対する関心を高め、地域福祉を推進するため、手話の初・中・上級講習会を開催します。 初・中級講習会は、障害者団体等と協働で実施します。	青梅市聴覚者協会との協働事業によって中級手話講習会を実施した。	○	中級手話講習会は36人の受講者があり、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	80 点字図書給付事業	視覚障がい者の方に、点字図書を給付し、その活動を支援します。	障がい者のしおり等で周知を行ったが、令和元年度は利用がなかった。	△	令和元年度は利用実績がなかったが、視覚障害者への支援のひとつとして、効果的な事業であると認識している。 給付対象者の方への周知方法およびニーズの把握等制度の有効活用対策を講じる必要がある。
	障がい者福祉課	81 身体障がい者自動車運転教習事業	身体障がい者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の助成を行います。	心身障害者の就労など社会参加の拡大を図るため、自動車運転教習費用の補助を行った。 利用者1人	○	支給実績はとしては利用者1人ではあるが、心身障害者の社会参加の拡大に効果的な事業であるため、おおむね順調であると判断した。
	障がい者福祉課	82 相談支援事業	市の窓口で、障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行うことで社会生活の自立に向けた支援をします。	設置場所 障がい者福祉課、青梅市障がい者サポートセンター、青梅市障害者就労支援センターで実施。 ・市役所障がい者福祉課 実利用人数 1,501件 ・障がい者サポートセンター 延べ相談件数7,507件 ・障害者就労支援センター 5,885件	○	市の窓口等で、障害のある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や助言を行い支援ができた。
	障がい者福祉課	83 意思疎通支援事業	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する行事などに手話通訳者・要約筆記者を派遣します。	意思の疎通が困難な重度聴覚障がい者の方に対して、公共団体等が主催する講演会などに手話通訳者・要約筆記者を派遣した。 障がい者福祉課派遣 4件	○	障害者差別解消法の施行に伴い、合理的配慮のひとつとして重要な事業と認識している。
	障がい者福祉課	84 青梅市障がい者サポートセンター事業	障がいのある方やその家族等からの相談に応じ、必要な情報の提供や支援を行い、障がいのある方の創作活動や生産活動の機会を提供し、社会との交流の促進等を行います。また、障がいのある方やその家族、障がい者団体等が活動する場を提供し、障がいのある方の自立の促進を図ります。	条例・規則に定めた支援を実施した。 ・相談支援 延べ相談件数 7,507件 ・創作活動や生産活動 延べ参加人数 4,712件 ・施設貸出し 延べ利用人数 4,210件 ・生活支援（パソコン指導・療育指導） 延べ人数 313件	○	相談支援件数が増加しているが、これは、障害福祉サービスのサービス等利用計画の作成の影響と考える。 本事業により、障害のある方やその家族等への支援を行い、障害者の自立の促進が図れた。
	障がい者福祉課	85 中等度難聴児発達支援事業	身体障がい者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援します。	身体障害者手帳の交付対象とならない中等度難聴児に対して、補聴器の購入費用の一部を給付し、言語の習得等を促進させ健全な発達を支援した。 利用件数1件	○	本事業は、平成25年度からの事業で、手帳の交付対象とならない難聴児に対する支援であり、手帳取得に至らない中等度難聴児の発達支援を行うには効果的な支援制度と判断している。
	社会教育課	86 ともに生きるための教室・講座の企画運営	地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。 高齢者の生きがい、男女平等、人権平和・国際理解、障がい者の学びの場を実現し、地域で助け合いと協力、ふれあいを支援する教室・講座を開催します。	・女性向けパワーアップ講座「ワークを通じて わたしらしい働き方を考える」(10人) 青梅市生涯学習推進市民会議企画講座 ・異文化体験「英語で楽しむポーランド料理」(24人) ・異文化体験「英語で楽しむメキシコ料理」(21人) ・英語で楽しむエクササイズ(14人) 学務課共催 ・発達障害の特性と支援～具体的な事例から～(76人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 5講座 145人	○	多文化理解や女性の働き方、障害への理解、趣味を通じたコミュニティ形成などを目的に5講座を実施した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(3) ともに生きるための学習機会の充実	社会教育課	87 生涯学習まちづくり出前講座	市の施策や事業等をテーマに、市職員等が市民のところへ出向いてお話しする出前講座を実施し、市民が自分達のまちについて学ぶ生涯学習の機会を提供します。	講座名「青梅の姉妹都市～ポツパルトについて～」 以下57講座 秘書広報課以下14課 青梅消防署、青梅警察署、関東財務局、西多摩保健所、東京公共囀託登記司法書士協会 延べ受講者数 2,173人	○	各課、各部署の協力により、幅広いテーマで57講座開催した。天候や新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、開催数は減少した。
	青梅佐藤財団・社会教育課	88 国際理解講座	1 世界に広がる教室 次代を担う青少年(小学4年生～高校生)のために、国際的な視野と教養が身につくよう支援します。(英会話と文化講座) 2 外国人日本語講座 外国人が日本語を正しく理解し、安全で快適な市民生活が送れるよう講座を実施し、支援します。(正しい日本語の学習「音声・文字・助詞」)	・小学生講座 実施日 5月18日～3月7日(全20回) ※新型コロナウイルス感染予防のため最終日の閉講式は中止 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 小学校4年生19人、小学校5年生23人、小学校6年生31人 計73人 ・中学・高校生講座 実施日 5月18日～3月7日(全20回) ※新型コロナウイルス感染予防のため最終日の閉講式は中止 内容 英会話講座、文化講座 参加人数 中学1年生8人、中学2年生9人、中学3年生8人、高校3年生1人 計25人 ・外国人日本語講座 実施日 5月15日～11月16日(全18回) 内容 正しい日本語の学習、音声、文字、助詞 参加人数 11人	○	合計で99人の世界に広がる教室の参加者を迎えて講座を実施した。今後とも多くの受講生に参加してもらえるよう広報していく必要がある。 外国人日本語講座は、参加人数が少ない。周知の方法について英語表記をするなど、外国の方がわかりやすい工夫していく。
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	高齢者支援課	89 介護予防講演会	介護予防に関する基本的な知識の普及啓発のため講演会を開催します。	・「人生100年時代を元気に生きるこれからは「フレイル予防」」 実施日:8月5日 参加人数:64人 講師:田中友規氏(東京大学高齢社会総合研究機構) ・「認知症にやさしい地域をめざして」 実施日:1月16日 参加人数:106人 講師:井上宏氏(厚生労働省老健局総務課認知症施策推進室)	○	年2回テーマを変えて介護予防の普及啓発を実施することができた。
	高齢者支援課	90 介護予防教室	高齢者の健康寿命延伸、介護予防を目的に、健康チェックや集団での運動などを行います。	・健康寿命のび～の教室 全12回×年3回 全10回×年1回(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2回分中止) 参加者数:54人(延べ498人) 委託事業者:株式会社ルネサンス ・脳イキイキ教室 全5回×年1回 全4回×年1回(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1回分中止) 参加者数:29人(延べ126人) 委託事業者:株式会社ルネサンス	○	介護予防の運動や知識の普及啓発ができ、自主的な介護予防活動のきっかけを作ることができた。
	健康課	91 おうめ健康まつり	医師による健康相談、健康チェック、歯科相談、展示、体験等のコーナーや健康に関する講演など、市民一人ひとりが家族ぐるみで楽しく健康づくりを学べる催しです。	第49回おうめ健康まつりを開催した。 青梅市三師会と市の共催で「家族ぐるみの健康づくり」をテーマに、三師会等による各種相談、市民参加型の各種コーナーの実施、青梅市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)による講演会を実施した。 ・実施日:5月19日午前10時から午後2時 ・会場:青梅市役所(正面玄関、1階ロビー、2階会議室等) ・参加人数:延べ5,700人(6,427人)	○	各コーナーについては、昨年度参加者アンケートを踏まえ共催者である青梅市三師会等と実施内容の協議を行い、三師会等による各種相談、ヘルスチェック、ランニングのための姿勢づくりストレッチ教室、転倒予防教室、梅っこ体操教室等市民参加型の各種コーナーの開設や青梅市三師会(医師会、歯科医師会、薬剤師会)による健康に関する講演会を実施した。また、新規事業として骨密度測定等を実施し、健康づくり普及啓発の機会の場として健康に関する正しい知識や情報提供を行うことができた。
	健康課	92 健康教育	生活習慣病の予防とその他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより、「自分の健康は自分で守る」という自覚を高め、健康の保持増進を行うための講座や教室を実施する。	生活習慣病の予防や健康づくり等に関する各種講座を開催した。 ・開催場所:健康センター、市役所など ・参加者数:2,117人(延べ人数)	○	利用者にあわせて会場や時期、内容で教育を実施し、利用者の生活習慣病予防や健康に関して意識を高める事ができた。
健康課	93 健康相談	心身の健康に関する個別の相談に応じ必要な指導及び助言を行い、自分の健康管理を行うための健康相談を実施する。	市内の施設で定期的に健康相談を行った。 ・開催場所:健康センター、中央図書館、総合体育館、市役所など ・利用者数:795人(延べ人数)	○	利用者の健康レベルなどに合わせて健康相談を実施し、利用者の健康管理を図ることができた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	総合病院管理課	94 おうめ健康塾	当院の医師・看護師等が講師となり、疾病の原因、治療、予防等について話し、質問にもお答えします。年間11回の開催予定です。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成31年4月24日「卵巣がんのお話し」23人参加 ・第2回 令和元年5月22日「放射線治療～安心して受診していただくために～」32人参加 ・第3回 令和元年6月26日「認知症かもしれないと思ったとき～ご自身、ご家族のサポート体制の豆知識～」51人参加 ・第4回 令和元年7月24日「転倒への対策と予防のための体操」61人参加 ・第5回 令和元年9月25日「生活習慣病予防の食事について」40人参加 ・第6回 令和元年10月23日「インフルエンザの予防と対策」26人参加 ・第7回 令和元年11月20日「生活習慣と検査結果」34人参加 ・第8回 令和元年12月18日「がんの病理診断はどのように行われるか」28人参加 ・第9回 令和2年1月22日「おくすりとの正しいつきあい方」35人参加 	○	全11回を予定したが、新型コロナウイルスの影響により2月・3月の2回を中止とし、9回実施延べ330人の参加となった。なお、新病院建設工事に伴い南棟講堂が使用できなくなったため、会場確保に課題がある。	
	スポーツ推進課	95	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	<p>市民が健康な生活を送れるよう支援する教室・講座を開催します。</p> <p>1 短期スポーツ 気軽に楽しく誰にでもできるスポーツ教室を開催します。</p> <p>2 長期スポーツ教室 青少年の心身の健全育成を目的とした剣道・柔道教室を、年間を通して開催します。</p> <p>3 ジュニアスポーツ教室 小学生のスポーツへの関心をより高め、各種スポーツの紹介、体験を通して自身の適性を知り、興味や親しみを持ってもらうことを目的として開催します。</p> <p>4 障がいの有無や年齢・性別にかかわらず、誰でも楽しめるスポーツの教室等を開催します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ポッチャ体験会(旧アダブテッド・スポーツ教室)、1回(49人) ・柔剣道スポーツ教室 柔道教室 延べ231教室(2,810人) 剣道教室 延べ400教室(4,738人) ・ジュニアスポーツ教室(各教室計4回ずつ実施。一部教室のみ計3回実施。) バスケットボール教室(289人) バドミントン教室(159人) 水泳教室(166人) ビーチボール教室(159人) テニス教室(125人) 新体操教室(60人) バレーボール教室(233人) 卓球教室(134人) ソフトテニス教室(233人) ・リズムトレーニングを取り込んだ運動能力向上事業(349人) ・スポーツ×地域の魅力 カヌー体験プログラム(73人) ・その他のスポーツ教室 4教室、14回(190人) ※括弧内の人数は延べ参加人数 	○	各種スポーツの教室や地域の特徴的なスポーツであるカヌー体験などを通じて、競技スポーツに関心を持ってない方へ様々なアプローチを行った。
	社会教育課	96	健やかに生きるための教室・講座の企画運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ピラティス～呼吸法と共に体幹を鍛える～(64人) <p>青梅市生涯学習推進市民会議企画講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学生による認知症予防講座(46人) ・お正月太り解消 強い身体を作ってダイエットしよう！ ヨガ&ピラティス(47人) <p>※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 3講座 157人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピラティス～呼吸法と共に体幹を鍛える～(64人) <p>青梅市生涯学習推進市民会議企画講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法学生による認知症予防講座(46人) ・お正月太り解消 強い身体を作ってダイエットしよう！ ヨガ&ピラティス(47人) <p>※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 3講座 157人</p>	○	市民会議の企画講座を中心に老化予防や健康に関係する運動講座を実施した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(4) 健やかに生きるための学習機会の充実	スポーツ推進課	97 各種体操教室	市民の健康・体力づくりを目的とした各種体操教室を総合体育館で実施します。幼児、小学生、親子、勤労者、女性、中高齢者など、対象別の各種教室を企画・開催し、参加者にとって魅力のある教室の運営を図ります。	【当日参加制教室】 教室名：ホップステップ体操、いきいき体操、はつらつ体操、シェイプアップ体操、のびのび体操、男性のヘルシー体操、リフレッシュ体操、フレッシュアップ体操 会場：第2スポーツホール 延べ参加者人数：13,914人(336回開催) 【登録制教室】 教室名：太極拳、親子コンタクト(ベビー・すくすく)、バドミントン、Jr.フットサル(幼児・児童)、レディースフットサル、パワーヨガ、骨盤調整ヨガ、ボディバランスストレッチ、ソフトエアロビクス、Jr.バドミントン(幼児・児童)、チアダンス、figure 8、骨盤エクササイズ木曜、リラククスヨガ、アクティブヨガ、体幹エクササイズ(初級・中級)、体操(幼児・児童)、ZUMBAGOLD、ZUMBA、Jr.卓球(幼児・児童)、KID'SHIPH OP、骨盤エクササイズ土曜 会場：第1スポーツホール、第2スポーツホール、第1会議室、幼児室 延べ参加人数：9,056人(914回開催)※手話教室は含まない	○	指定管理者の事業として実施し、多くの方に参加していただいた。
	スポーツ推進課	98 青梅マラソン大会	スポーツを通じてボランティアをする機会を提供します。 全国の市民ランナーと国内外の招待選手が青梅に集い、マラソンを通して選手と市民がスポーツ・文化交流を深めます。 30キロの部、10キロの部	実施日 2月16日 参加人数 15,258人 30キロの部 11,976人 10キロの部 3,282人 ジュニアロードレース 597人	○	第54回目の大会として、多くの参加者を迎え開催した。 また、10キロの部会場ステージを市民の発表の場とするなどスポーツイベントを活用し、発表の機会を提供した。
	スポーツ推進課	99 有酸素運動普及事業	気軽にできるウォーキングや軽体操等の有酸素運動普及・促進に関する事業を開催し、市民の体力・健康の維持増進の取組への意欲向上に寄与します。	多摩川流域魅力体験！クイズウォークラリー ※台風の影響により中止	-	
	スポーツ推進課	100 スポーツ・レクリエーションイベント	スポーツ・レクリエーション活動を全市的な規模で実践する場を提供することにより、市民一人一人の活動への参加意欲を喚起し、生涯スポーツを振興します。	実施日 10月14日(体育の日) 会場 総合体育館ほか体育施設 ※台風の影響により、屋外種目は一部を除き中止 参加人数 2,434人	○	ワールドカップの開催で注目されたラグビーの体験会を新たに実施した。 また、昨年に引き続き、施設管理を行う指定管理者とも協力し、参加者のニーズに合わせた事業の実施に努めている。
	スポーツ推進課	101 市民体育大会	市民の体力づくりと技術の向上を図ることを目的として、青梅市体育協会に委託し、各種大会を実施します。	種目 30種目 参加人数 7,939人	○	広く市民に開かれた大会として実施している。 だれでも参加が出来る大会を開催することで、市民体育大会への参加を目標とし、スポーツに取り組む機会を提供している。
	スポーツ推進課	102 奥多摩溪谷駅伝競走大会	80回を超える歴史と伝統を誇る大会で、200チーム以上が冬の奥多摩路を疾走します。 一般、大学、高校、女子、中学生、小学生、支会・自治会の部	実施日 12月1日 参加チーム数 242チーム	○	全体の参加チームは減ったものの、支会・自治会の部の参加チームが大きく増え、より地域に密着し、盛り上がりみせた大会となった。
	スポーツ推進課	103 屋内温水プール開放事業	市内にある民間温水プールを借り上げ、年間を通じた市民の健康、体力づくりの場として提供します。	実施日 毎週日曜日 42回開放 利用人数 大人1,330人 小人628人 合計 1,958人 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3月8日から開放中止	○	新型コロナウイルスの影響により開放日数は少なくなったが、昨年を超える利用者がおり、年間を通じた健康、体力づくりの場として機能している。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
<p>(4)</p> <p>健やかに生きるための学習機会</p>	オリンピック・パラリンピック担当	東京2020大会に向けた気運醸成事業	2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向け、スポーツを始め文化、教育、国際交流など幅広い分野で様々な取組を進め、大会気運の醸成を図る。	<p>スポーツの体験や観戦を通じた気運醸成として、スポーツ・レクリエーションフェスティバルや青梅産業観光まつり、青梅マラソン大会などの機会に、エクストリームスポーツやバーチャルスポーツ、パラスポーツなどの体験を盛り込んだ。また、パラスポーツ体験とユニバーサルデザインを学ぶ出前講座を、市内小学校6校で実施した。</p> <p>ラグビーワールドカップ時におけるパブリックビューイングの開催、市内小学生や公募市民を対象としたパラスポーツ国際大会の観戦会を実施した。</p> <p>文化的事業として、文化キャラバンと称し狂言をテーマに4つの地域で文化体験を実施した。また、大会1年前事業として、青梅市納涼花火大会において特別花火を打ち上げた。</p> <p>ドイツのホストタウンとして、ドイツの青少年を招き、中学生との交流機会を創出した。ドイツの食と文化を知るイベントKarneval in 青梅 2020については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から開催直前に中止判断をした。</p>	○	<p>翌年度に大会開催を控え、幅広い分野や視点から大会への期待感や祝祭感が高まるよう気運醸成事業に取り組むことができ、アンケート調査結果からも参加者の高い満足度を得ることができた。</p> <p>一方で、新型コロナウイルスの世界的感染拡大の影響から、2020年3月に、東京2020大会が2021年に延期されることが発表された。</p> <p>これに伴い、関連事業の中止・延期が余儀なくされており、事業活動の再開が新型コロナウイルスの動向に左右されることから、今後の動向を注視し、適時適切に準備を進めていく。</p>
<p>(5)</p> <p>暮らしやすい環境のための学習機会の充実</p>	市民安全課	105 広聴活動	市政に関する要望、意見、提案等を寄せていただき、市民参画によるまちづくりを進めるために役立っています。	<p>市長への手紙の受付ボックスを市内の公共施設等34か所に設置し、いつでも市民の声を聴けるようにするとともに、要望書についても、随時受付を行った。</p> <p>・市長への手紙 134件 ・要望書 109件</p>	○	<p>市政に関する要望、意見等に対し、なるべく迅速に回答するよう努力している。</p> <p>いただいた要望等は、今後の市政運営に役立っている。</p>
	市民安全課	106 交通公園日曜映画教室	楽しみながら交通安全の知識が得られるように、幼児から親子を対象に交通安全の講話と映画上映を毎週日曜日に実施します。	<p>参加人数:476人 上映回数:45回</p>	○	<p>毎週日曜日に、交通安全啓発ビデオを上映し、楽しみながら交ルール、マナーについて、啓発することができた。</p>
	市民安全課	107 交通公園交通安全教室	楽しみながら安全な歩行や自転車利用法、交通マナーが習得できるように、保育園児や幼稚園児、小学生、高齢者を対象に交通公園で随時実施します。	<p>参加人数内訳 小学生:1,363人(3年生、自転車免許証交付 1,003人) 高齢者:62人 (歩行者シュミレータを活用した交通安全教室 2団体) 幼稚園、保育園(交通安全教室):704人 その他:247人</p>	○	<p>青梅警察署を始めとする各種関係団体と協力し、市内の小学校3年生を対象とした自転車運転免許証交付事業を実施するとともに、幼稚園、保育園、希望校(3年生以外)を対象とした交通安全教室も随時実施し、交ルール、マナーの啓発に努めた。</p> <p>また、高齢者を始めとする大人を対象とした交通安全教室についても開催し、老若男女を問わず、交通安全意識の高揚を図ることができたため。</p>
	市民安全課	108 交通安全講習会	青梅警察署および青梅交通安全協会と連携し、一般市民を対象に市内12か所の会場で、交通安全講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。春・秋の交通安全運動に先がけて、各12日間実施します。	<p>・秋の交通安全講習会 8月26日～9月7日(9月1日を除く)12会場 参加人数:307人 ・春の交通安全講習会 新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止</p>	○	<p>一般市民を対象に春・秋の交通安全運動に先駆けて、市内12か所の会場で、交通安全に関する講話と交通事故防止を目的とした映画上映を行い、交通安全意識の高揚を図った。</p>
	市民安全課	109 セーフティ教室(交通事故再現方式)	交通事故再現方式による自転車安全教育を中学校において行い、交通安全意識の高揚と事故防止を図ります。	<p>第二中学校(7月12日) 参加生徒数:446人 第三中学校(9月14日) 参加生徒数:481人 西中学校(11月20日) 参加生徒数:299人 合計:1,226人</p>	○	<p>交通事故の衝撃や怖さを実感することにより、交通安全意識の高揚、自転車走行ルール・マナーの向上を図ることができた。</p>

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	市民安全課	110 専門相談事業	専門相談員による各種専門相談(法律相談、人権身の上相談、行政相談、交通事故相談、登記相談、相続・遺言等暮らしの手続き相談)を実施します。	<ul style="list-style-type: none"> ・法律相談(相談内容) 土地家屋の賃貸借、相続、離婚、債権債務、損害賠償など(相談回数) 80回 (相談件数)488件 (相談員) 弁護士 ・交通事故相談(相談内容) 交通事故による損害賠償問題、示談および保険手続きなど(相談回数) 24回 (相談件数) 36件 (相談員) 弁護士 ・登記相談(相談内容) 土地・家屋の不動産や法人登記および境界に関すること(相談回数) 12回 (相談件数) 62件 (相談員) 司法書士、土地家屋調査士 ・身の上相談(相談内容) 家庭や身の上の悩み事、職場の差別やプライバシー侵害など(相談回数) 16回 (相談件数) 32件 (相談員) 人権擁護委員 ・行政相談(相談内容) 国の行政機関や政令で定める法人の業務に対する苦情や要望など(相談回数) 14回 (相談件数) 10件 (相談員) 行政相談委員 ・相続遺言等暮らしの手続き相談(相談内容) 相続に関する遺産分割協議書、遺言書等の書き方や手続きに関すること(相談回数) 12回 (相談件数) 52件 (相談員) 行政書士 	○	専門相談員による各種専門相談を実施し、市民からの相談に対し、解決等に向けての助言を行った。
	市民安全課	111 パネル展等(消費者知識習得・被害防止)	消費者知識の習得と消費者被害防止を図るため、パネル展示やパンフレット等の配布により啓発を行います。	市役所エントランスロビー、市民センター玄関ホール、市内の高等学校や専門学校等において、悪質商法の手口等を紹介したパネル展示を延べ18回実施したほか、啓発冊子の配布を西東京農業協同組合の本支店7か所に依頼した。	○	市内にある高等学校、専門学校や企業等の協力により、市民センターをはじめ市内各所でパネル展示等を行ったことにより、悪質商法をはじめとする消費者トラブルの事例と対処法についての啓発を広く行うことができた。
	市民安全課	112 消費者相談	契約上のトラブル、欠陥商品による被害を受けた場合などの相談を受けることで、相談者に消費生活上の知識を広げていただきます。週5日(開庁日全日)	消費者相談は、開庁日に実施し、毎月第2・第4火曜日については、午後6時まで相談時間を延長した。令和元年度相談件数:1,1,03件	○	消費生活相談員が1~2人体制で電話および来庁での相談に対応し、消費者トラブルについて助言やあっせん解決を行った。
	市民安全課	113 消費生活講座等	消費者問題や日常生活に役立つ身近なテーマを取り上げ、開催します。	消費者講座・啓発事業等(生活知識に関するもの24事業:1,507人、環境・資源に関するもの4事業:107人、食に関するもの6事業:147人、計34事業開催し1,761人が受講した。	○	高齢者を対象とした悪質商法防止啓発をはじめ、生活の中で身近な消費者に関する題材等をテーマに講座を行い、小学生から高齢者まで幅広い年齢層の参加、受講があり、啓発ができた。
	市民安全課	114 市民のくらし展	消費者団体等と協働で、市民生活に関する情報発信やコミュニティの大切さを啓発するため実施します。年1回	11月2日・3日の2日間開催した。参加団体2団体、延べ来場者数 16,500人 市内の高等学校の生徒がボランティア参加した。	○	青梅産業観光まつりにあわせて行ったため、多くの来場者に食品ロス等のくらしに関する情報を発信することができた。また、市内に在学する高校生がボランティアとして参加し、悪質商法被害防止啓発等を行い、市民とともに消費者問題について学ぶ機会を設けることができた。
	環境政策課	115 環境月間	環境保全の重要性を認識し、行動の契機とするため、各種の啓発を行います。	<ul style="list-style-type: none"> ①6月1日号広報おうめ周知 ②6月の環境月間中の「おうめ環境フェスタ2019」をおうめ環境市民会議と協働で実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民環境活動展示(市役所ロビー) ・中央図書館環境関連図書コーナー ・環境体験学習イベント(958人) ・フリーマーケット(20組) ・野鳥観察会(24人) ・コケ玉づくり(18人) ・講演会「家庭でできる省エネのコツ~かしこく暮らしてすてきにエコ~」(13人) ・農園見学・農作業体験(2人) ・基調講演「多様な森林を育む」(48人) ③3月15日おうめ環境ニュースを発行 	○	市内の団体、企業、教育機関等の各主体の環境活動を集め、市民に向けてアピールする環境月間に行う「おうめ環境フェスタ」は、啓発効果が高く、環境について考える場を提供できる意義ある事業と考えられる。また「おうめ環境ニュース」についても市民団体と協働で編集を行うことで、市民目線の発行物を作成できたと考えられる。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	環境政策課	116 親水事業	市民団体等と協働で、事業体験型や学習型の親水事業を実施します。	①がんばれ！あゆっ子2019「稚鮎の放流と生態系調査」(NPO法人奥多摩川友愛会)(子ども21人、保護者26人) ②じゃぶじゃぶ川で遊んじゃおー(霞川くらしの楽校)(台風の影響で中止) ③多摩川まるごと遊び塾(青梅・多摩川水辺のフォーラム)(子ども27人、保護者19人) ④第11回炭焼き体験と水辺の交流会(美しい多摩川フォーラム)(子ども31人、保護者12人) ⑤いかだで遊ぼう in 霞川Part11(霞川くらしの楽校)(子ども14人、保護者7人) ⑥ワクワク！ドキドキ！！水辺の探検隊～達人と一緒に楽しく安全な川遊び教室～(青梅・多摩川水辺のフォーラム)(子ども58人、保護者47人) ⑦お魚釣り(霞川くらしの楽校)(子ども7人、保護者6人) ⑧親子魚釣り体験教室2019「お父さん頑張ってる！」(NPO法人奥多摩川友愛会)(台風の影響で中止)	○	各事業とも、当日までの間に行われた準備作業や、関係者との調整、周知活動等、団体の行動力には目を眩るものがあり、市においても物品準備や周知活動、当日の事業運営への協力を行い、それらの結果として、多くの子どもたちに自然体験をしてもらうことができた。全体として川と親しむ機会づくりに一定の効果があつたと考えられる。
	環境政策課	117 ヤマメの飼育体験教室	市内小学生がヤマメのふ化から放流までを体験することにより、自然の大切さや生命の尊さを知るとともに、青梅の身近な河川に親しむ場を提供します。	発眼卵配布 ・第六小学校(11月11日、106人) ・第二小学校(11月13日、105人) ・第七小学校(11月13日、25人) ・友田小学校(11月15日、51人) 3月の放流は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	△	放流事業は中止となったが、参加児童には発眼卵のふ化から成長までお世話をしながら観察することを通して、自然の大切さや生命の尊さについて考えてもらう機会になったと考える。
	環境政策課	118 動物愛護週間	市内のボランティア団体と協働で、動物の愛護と適正な飼養についての関心と理解を深めてもらうための各種啓発活動を行います。	「動物愛護週間イベント in おうめ」の実施 (1) 講演会「ペットと幸せに暮らすためのABC」 日時 令和元年9月22日(日)午後1時30分～午後3時 会場 青梅市役所2階201・202会議室 参加者数 14人 (2) 動物愛護活動パネル展示 期間 令和元年9月20日(金)～27日(金) 会場 青梅市役所1階ロビー(正面玄関脇)	○	飼い主のいない猫の問題を広く周知することで、住民自身が問題を理解し、対策の活動をしやすくなった。ボランティア団体と協働で実施することで、動物愛護や市内の猫の問題について、広く啓発できると共に、各団体の活動内容も紹介することができた。 講演会は、市民が関心を持てる、より身近な内容とし、動物に関する基礎的な理解を得る機会となったと考える。
	清掃リサイクル課	119 フードドライブ	食品ロス対策の啓発として、家庭で余っている食べ物をお持ちいただき、集められた食べ物をフードバンク等に寄付する活動です。	年4回、フードドライブを実施した。 1回目 5月31日～6月6日 2回目 9月13日～9月19日 3回目 11月1日～11月7日 4回目 2月21日～2月27日	○	年間で延べ107人の協力により270キロの食品が集まり、ごみ減量および食品ロス削減を図ることができた。
	清掃リサイクル課	120 ごみ処理施設見学会	市民のリサイクル意識の高揚と啓発のため、リサイクル製品再生工場等の施設見学会を実施します。	・10月16日、(株)エフピコ 関東リサイクル工場見学会 19人 (・2月28日、西多摩衛生組合、つるつる温泉、東京たま広域資源循環組合の二ツ塚処分場およびエコセメント化施設(応募27人、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止))	○	処理施設で収集から再資源化までの流れを実際に見学していただき、循環型社会について理解していただくとともに、リサイクル意識の高揚が図れた。
	清掃リサイクル課	121 市内一斉美化デー	ごみ減量の啓発および地域の環境美化向上のため、環境美化委員の協力により各地域の美化活動を行います。年2回	市内一斉美化デーを、5月12日(1,016人)と12月8日(1,036人)の2回実施した。	◎	環境美化委員連合会を中心に年2回、市内全域で多くの市民の協力により美化活動が行われると同時に、環境美化の意識の高揚が図れた。
	清掃リサイクル課	122 小学生ごみ減量化・資源リサイクル推進ポスター&キャッチフレーズコンクール	社会問題になっているごみ問題について、その減量化や資源化の大切さを個々に考えてもらうよう、啓発を行います。	ポスター部門は小学校7校から22点の応募、キャッチフレーズ部門は小学校10校から21点の応募があり、10月1日に審査会、10月27日に表彰式を行った。入賞作品は市役所1階ロビーで展示を行い、一部は令和2年度ごみ収集カレンダーの表紙に使用した。	○	多くの作品が応募されたことにより、ごみの減量化や資源化の啓発につながった。また、入賞作品をホームページやごみ収集カレンダー等に掲載し、ごみ減量などの啓発を図った。
	清掃リサイクル課	123 ごみ減量講座	資源循環型社会の目的理解と、ごみ減量を目指した学習を通して、ごみ問題についての啓発を行います。	ごみ減量をテーマに、出前講座(2回)を行い、ごみ減量の意識の向上を図った。 (講演会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止)	○	出前講座に111人多くの市民が参加し、ごみ減量等の意識の向上が図れた。
	梅の里再生担当	124 梅の里再生に関する学びの機会の提供	ウメ輪紋ウイルス被害からの梅の里の再生・復興に関し、地域の子供たちや市民に対し、学びの機会を提供します。また、教育機関と連携し、児童・生徒等に梅に関する体験の機会を提供します。	第五小学校2年生生活科授業 実施日 11月26日(水) 参加人数 7人	○	ウメ輪紋ウイルスの国内感染が本市にて初めて確認されてから再植栽までの取組みや今後について、児童へ向けわかりやすく説明した。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(5) 暮らしやすい環境のための学習機会の充実	社会教育課	125 暮らしやすい環境のための教室・講座の企画	日常生活や環境を考え、暮らしに役立つ工夫やヒントを得る機会としての教室・講座を開催します。	・平成31年度農業・食育体験教室(423人) 市民センター共催事業 ・新町ウォーク1講座(14人) ※括弧内は講座の延べ参加人数 合計 2講座 437人	○	暮らしやすい環境のための教室・講座として、2講座を実施した。
	清掃リサイクル課	126	「ごみ拾い」に「スポーツ」の要素を加え、健康増進と環境美化の推進を図る護美拾い合戦など、多目的な取組を行います。	実施なし	×	
	スポーツ推進課	127		護美拾い合戦	実施なし	

3 自主活動の支援 地域づくりは市民の活動から

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	企画政策課	128 ぶらっとフォーム推進ワークショップ	「第六次青梅市総合長期計画」に位置づけたまちの将来像を実現するため、多様な主体の参画・連携・協働により、魅力的なまちづくりを目指す「施策運動型のしくみ」を推進するため、対話の手法を取り入れたワークショップを開催します。	「AIチャットボットの可能性」をテーマに、今後の取組の可能性などについてアイデアを集めるため、ぶらっとカフェの開催を企画し、募集を行ったが、参加申込者が少なく開催中止となった。	△	様々なテーマにもとづいたぶらっとカフェを開催するため、新たなテーマで開催を企画したが、開催できなかった。 今後、開催テーマ、開催方法、ぶらっとカフェでできた意見の反映方法などの検討が必要。
	防災課	129 総合防災訓練	大地震による震災を想定した各種訓練のほか、避難訓練、初期消火訓練など住民参加型の訓練も実施し、防災意識の高揚を図り、防災知識や体験を深め、助け合い、協力し合う自主防災まちづくりを目指します。	市および関係防災機関、市民等が一体となって防災訓練を行うことにより、機関相互の協力体制の緊密化と防災計画の運用習熟化を図り、併せて市民の防災意識を高めることを目的に訓練を実施した。また、「防災ノート～災害と安全～」を活用した、親子防災体験として、今井小の児童に参加の周知を図った。 実施日 8月25日 午前8時から10時 会場 市立今井小学校校庭 参加機関 (1)青梅市 (2)防災関係機関:青梅警察署、青梅消防署等 (3)協力団体等:地元自治会、青梅LPG協会、青梅アマチュア無線クラブ、災害時支援ボランティア、第三中学校、新町中学校等 (4)参加機関34機関、参加人数 688人	○	防災関係機関、協力団体、市民等、多くの参加者があり、煙体験、応急救護訓練、初期消火訓練、応急給水訓練など、住民参加型の訓練を実施により、市民の防災意識の高揚を図ることができた。
	防災課	130 防災ハンドブックの更新・配布	市民への防災知識の普及および啓発のため、平成27年3月に配布した防災ハンドブックを更新し、配布します。市民の自助・共助の精神を養い、災害に対応できるよう支援します。	令和2年3月に市民防災ハンドブックを更新し、市内全戸へ配布した。 また、転入者に対しては引き続き市民課等で配付を行った。	○	防災ハンドブックの更新・配布を通して、日頃からの備え、震災時・風水害時の行動などの自助・共助等に関する情報を提供することができた。
	市民活動推進課	131 市民活動災害補償制度	市民活動団体等が、活動中に不測の事故により、参加者や第三者に損害を与え、法律上の損害賠償責任を負うことになった場合または参加者が負傷等された場合に保険で補償する制度を実施します。	・市民活動災害補償制度にもとづき、保険請求に係る事務手続きを行った。(市民活動推進係) 受付件数 傷害補償 28件 賠償責任補償 1件 合計 29件	○	自治会をはじめNPO団体などの市民活動団体の活動に関して、その活動が安全、安心して行えるように市が保険に加入し、ホームページや自治会へ配布した自治会ハンドブックに掲載、およびボランティア団体連絡会等で周知をして制度について認知が得られ活用されているため
	市民センター	132 自主学習グループ支援	自主グループが学習活動を継続できるよう、活動場所や資料作成のための印刷機などを提供するほか、日ごろの活動成果の発表の場として、市民センター文化祭などを開催します。	・自主グループの活動場所として、会場の貸出し、印刷機の貸出を行った。(各市民センター) ・自主活動グループと地域住民とで、日頃の活動発表の場として市民センター文化祭を実行委員会とともに開催した。 ・青梅市民センターでは、社会教育課・実行委員会と共催で、ネットたまごセンターあそびば文化祭を開催した。11月23～24日 参加者数:500人 ・長淵地区文化祭 11月9～10日 参加人数:1,288人 ・大門市民センター文化展・ふるさと祭り 11月23～24日 参加人数:1,386人 ・梅郷地区総合文化祭 11月10日 参加者525人 ・三田地区総合文化祭 11月10日 参加者859人 ・小曾木地区文化祭 11月9～10日 参加者631人 ・成木地区文化祭 11月9～10日 参加者828人 ・東青梅市民センターコミュニティ文化祭 10月26～27日 参加人数:1,168人 ・新町末広町文化祭 11月9～10日 来場者739人 ・河辺市民センター文化祭 10月19～20日 参加人数:1,537人 ・今井市民センター文化展・ふるさと祭り 10月26～27日 参加人数:2,462人	○	センターは地域の自主グループを中心とした各種団体の活動拠点としての場所の提供など役割を果たすとともに、発表の場および地域交流の場として文化祭を開催している。自主グループの学習活動に対し、可能な限り施設等の提供ができた。また、文化祭においても多くの観覧者の参加を得、一定程度の効果があつた。
市民センター	133 支会、体育振興会、自主防災地区委員会、高齢者クラブ等各地域団体の支援	地域活動がスムーズに行われるよう、地域に密着した施設として、会場や備品・用具の提供などにより、地域活動が進展するよう応援します。 地区運動会、各種スポーツ大会、講演会、研修旅行、総会・役員会など	・地域活動が円滑に行われるよう、支会、自主防災組織等各種団体の事務局として、また地域に密着した施設として、会議等活動の支援および会場、備品、用具の提供などの面で地域活動が進展できるよう支援した。 ・地区運動会等の地域行事および各団体の総会、役員会開催のほか、高齢者団体等の地域活動を積極的に支援した。 ・地区防災訓練、地区運動会に中学生のボランティアによる参加を求め、地域との連携を支援した。 (主な地域活動) 視察研修、地区運動会、各種球技大会、地区防災訓練等	○	さまざまな地域団体の事業の支援を行うとともに、支会の事務局として地区運動会、各種スポーツ大会など地域行事の支援を積極的に行ってきたほか、各種団体の事務局として、地域団体活動を支援するとともに、施設等の提供を行い、一定の成果を上げることができた。(沢井C)	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 地域コミュニティ活動への支援	清掃リサイクル課	134 環境美化大会	ごみ減量を中心に、市の環境衛生美化推進のため、環境衛生・美化善行者、団体等への表彰と講演会を行い、地域における市民活動を支援します。	環境美化委員をはじめ、環境衛生・美化善行者、優良団体等の表彰を行い、「エフビコ方式のリサイクル～トレーtoトレー、ボトルtoトレー～」と題した講演会を開催した。	○	美化活動およびごみ減量にご尽力いただいた市民および団体を表彰し、地域における市民活動を支援した。
	清掃リサイクル課	135 資源回収の奨励	自治会、子ども会等の地域活動の一環として、資源のリサイクルの必要性を認識し、リサイクルの促進に取り組む、ごみ減量を図ります。	144団体が実施。資源回収量は3,362,126kg。報償金38,003,786円、特別報償金4,127,693円を交付した。	○	多くの団体が資源回収に取り組んだことで、ごみの減量や資源の有効利用の推進、地域コミュニティづくりが図れるとともに、行政回収経費を削減することができた。
	スポーツ推進課	136 地区市民運動会等支援	青梅市自治会連合会の各支会、地区体育振興会、三団地連絡協議会等に対し、地区市民運動会等交付金を交付し、地区体育の振興とコミュニティの醸成を図ります。	交付団体数：14団体 交付金額：13,778,000円 地区市民運動会延べ参加者数5,696人 ※台風の影響により、中止の支会あり ※要綱にもとづき、5月と9月に交付	○	各地域で運動会やスポーツ大会などの開催にかかる経費に支援することができ、事業の目的を果たすことができた。 支会、自治会の活動の自由度を広げるため、自治会振興交付金との統合を図った。
	社会教育課	137 総合文化祭	青梅市文化団体連盟との共催により、市民の日ごろの学習成果発表の場として、各参加団体の舞台発表や作品展示等の総合文化祭を開催します。	総合文化祭開催期間 期間10月13日～12月8日 参加団体 22団体 参加者数 7,695人(観覧者含む)	○	文化団体連盟に加盟している、合唱連盟、三曲連盟、日本舞踊連盟、吟詠連盟、華道会、陶芸連盟、盆栽協会、書道連盟などの団体が市内外各会場で発表会や展覧会を開催した。青梅市文化交流センターを利用した初めての文化祭となった。台風の上陸により、2団体が急きょ日程変更して開催したため、参加者数・観覧者数は前年に比べ減少した。
	青梅市立第一中学校	138 クリーン活動	青梅大祭後の青梅の町を清掃する。生徒を中心に、ボランティアを募って実施する。生徒の自主参加による活動。	早期7時50分から、140人もの生徒(前項の半数以上)が自主的に参加した。令和元年度は、例年の分担区域と異なり、本校生徒の担当範囲が広がり、本校生徒への地域の期待が感じられた。	◎	生徒会が中心となり、本校の「3ない運動(もつたない・みつもない・申し訳ない)」の精神のもとで、毎年行っている伝統的な取組である。生徒は、例年当たり前のように非常に熱心に活動しており、一昨年度からは、一小や四小の高学年の児童も参加するようになった。取組としても充実してきている。
	青梅市立第一中学校	139 多摩川1万人清掃活動	PTAを中心に、生徒に呼びかけて「多摩川1万人清掃」への自主参加を促し、清掃活動を行います。	令和元年度は、部活の対外試合と重なったために、生徒の参加が難しかった。PTAを中心に多数の保護者が参加してくれた。	△	一昨年は、多数の生徒の参加があった。しかし、夏休み中の取組で、どうしても部活動との兼ね合いで困難な場合が出てしまう。
	青梅市立第二中学校	140 地域防災訓練	各自治会単位で行われる地域防災訓練に生徒が参加し、地域の防災意識を高めます。	各地域の防災訓練に部活動単位で参加させていただいた。防災・安全教育の視点だけでなく、社会奉仕の精神を養う体験ができた。	○	中学生の防災対応能力の育成が求められる今、生徒の防災意識を高め、災害時に自ら臨機応変な判断や適切な行動を考える機会となった。
	青梅市立第二中学校	141 地域清掃	学校周辺を含め地域を回り、ゴミを回収し美化活動に取り組めます。	3月に予定していた地域清掃活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校により中止。	-	
	青梅市立第二中学校	142 自治会運動会への参加	吹奏楽部が地域の自治会の運動会に参加し、演奏を行い地域との交流を図ります。	10月 恵明フェスティバルにて演奏 12月 第二小学校にて演奏 残念ながら、第二支会運動会は台風のため中止となり、福祉施設への訪問は日程が調整できずに中止となった。 地域での発表の機会に向けて、計画的に練習に取り組むことができた。	○	吹奏楽部にとって、地域で演奏する機会を与えていただき、とても励みになっている。
	青梅市立第二中学校	143 多摩川1万人の清掃大会への参加	身近の多摩川を自治会と協力し、清掃活動へ参加することで郷土愛や地域とのコミュニケーションを図ります。	8月 部活動を中心に呼びかけを行い、当日は、多くの生徒が「みんなの多摩川 みんなできれいに」を合い言葉に清掃活動に参加した。	○	郷土愛を育むことができ、地域の方々とのコミュニケーションを図ることができた。
(2) 成と地域人材の育	防災課	144 防災リーダーの育成	自主防災組織の主体的な活動の要となる防災リーダーについて、計画的な育成を図ります。	自主防災組織の強化および防災リーダーの育成を図るため、防災士の資格取得にかかる経費を5組織に交付した。また、防災リーダーの育成を目的とした「防災リーダー講習会」を実施した。 1 実施日時：令和元年11月24日(日)9:30から正午まで 2 参加者：34人(防災士13人、自主防災組織関係者21人) 3 講習内容：水道キャラバンによる講義、応急救護訓練、救出救助訓練	○	制度を開始した平成26年度から、累計48人の防災士を養成。また、防災士をはじめ、各自主防災組織から参加者を集めて防災リーダー講習会を実施、防災リーダーの育成を図っている。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
（２） 地域人材の育成と活用	市民センター	145 子ども会ジュニアリーダー講習会	子ども会の最上級生となる小学校6年生を対象に、子ども会リーダーのあり方や行事計画の立て方、ゲーム指導などの講習会を行い、下級生の面倒を見ながら、子ども会活動ができるようにします。	・(長淵C)地域PTAの協力のもと、地区青少年委員を講師にジュニアリーダー講習会を開催した。6月22日 参加人数:46人 ・(小曾木C)地区子ども会と第六中学校から子どもを集め、黒沢川清掃活動をテーマにジュニアリーダー講習会を3回開催した。参加人数:延べ82人 ・(東青梅C)青少年委員を講師として、地区内の主に小学校5、6年生を対象に、「R-元マイスターへの道——東青梅市民センターを攻略!!——」を実施した。5月19日 参加人数:55人	○	青少年の育成の支援の一つとして、地域内のジュニアリーダーの養成を支援し、地域の青少年の健全育成を図る取り組みを支援している。 子ども達でテーマを決め、ポスターを描き、清掃活動を住民と一緒にやる。ジュニアリーダー講習会は、地域の青少年健全育成に寄与している。
	市民センター	146 子ども会育成指導者講習会	子ども会育成会役員などを対象に、子ども会活動のあり方や運営のポイント、レクリエーションのポイント等について研修会を行い、地域子ども会活動の活性化を図ります。	ジュニアリーダー講習会に子ども会育成会役員等も参加し、地域の子供会活動の活性化を図った。	○	育成会役員などの大人が子供たちと一緒に体験、講習を受ける中で、育成指導者としてのあり方を学んだ。
	市民センター	147 地域の特性を生かした事業	各市民センターにおいて、その地域の特性を生かした講座・教室などを実施します。	各市民センターにおいて、市民センター利用サークルとの共催で、各種趣味・体験講座等を実施した。 ・(青梅C)社会教育課およびネットたまごセンターあそびばコーディネーターと共催で、各種文化講座を実施した。おいでよ!みんなのあそびばへ フォークギター講座 9月1日～9月29日 参加人数48人、大きな声でストレス発散!はじめての吟詠体験 1月24日 参加人数22人 (長淵C)「子供たちのお話会」4月13日～2月8日 参加人数:208人、長淵文化祭特別企画「お話し会」11月9日 参加人数:11人、みんなでいっしょに手打ちうどん作り体験7月28日 参加人数15人 ・(大門C)「庭づくり教室」6月18日、11月6日 参加人数26人、「クリスマスリースづくり教室」12月6日 参加人数:20人、「苔玉作り教室」2月20日 参加人数:14人、「そば打ち教室」10月24日 参加人数:16人 ・(沢井C)65歳以上を対象とした「らくらく健康体操教室」を実施し軽度な体操やレクリエーションを通じて健康な心身を作るとともに参加者の交流を図ったほか、御岳山ハイキングコース沿いの自然を観察しながら歩く「自然観察ハイキング」を実施し自然に親しみきっかけ作りと自然保護や体力増進、参加者間の交流を図った。 ・(小曾木C)「手打ちうどん教室」7月5日 参加人数:12人、手打ちそば教室」12月6日 参加人数11人 ・(東青梅C)センター利用団体や地元の方を講師とし、親子のふれあいや地域住民の趣味づくりを図る教室を実施した。合計参加人数:53人、当地区の防災士を講師として、地域の特性に合った防災対策を学ぶ講習会を実施した。 ・(新町C)「うどん作り体験教室」8月3日 参加人数:16人、「そば打ち体験教室」12月14日 参加人数:19人 ・(河辺C)「のびのび健康体操教室」通年 参加人数:1,092人 ・(今井C)「クリスマスキャンドルリース作り教室」12月14日 参加人数:18人	○	地域の魅力を再発見する良い機会となり、参加者の感想からも満足度の高さが伺えた。 生涯活動の拠点として、地域を知っていただけで良い機会となった。 高齢者の健康増進および地域の魅力を再発見する良い機会となり、参加者からも参加して良かったとの高評価を得た。
	公園緑地課	148 緑地管理ボランティア	緑地管理ボランティアを対象に講習会を開催し、下草刈り等の緑地管理作業に必要な技術や知識を習得し、緑地の良好な環境を維持できる資質の向上を図ります。	実施日 毎月第3土曜日(8月除く)に実施(計7回、天候等による中止3回) 場所 永山公園内ボランティア管理緑地 延べ参加人数 54人 内容 下草刈りおよび支障木伐採等	○	永山公園内ボランティア管理緑地の管理作業を1年を通して実施し、緑地管理作業に必要な技術や知識を習得できた。 また、ハイキングコースからの景観や解放的な空間がハイカーに提供でき、実施した成果が目当たりに確認できるため、ボランティアの方に充実感を味わっていただけたものと考えている。
	高齢者支援課	149 介護予防リーダー養成講座	高齢者がいつまでも住み慣れた地域で、自立した生活を送るために、介護予防について基本的な知識を身につけ、自分や家族、地域のために体操などを行う介護予防リーダーを養成します。	・介護予防リーダー養成講座 全10回:23人(延べ198人) ・介護予防リーダー定例会 全4回:53人(延べ129人) 委託事業者:医療法人社団和風会	○	介護予防リーダー養成講座では、地域での自主活動に向けて知識の習得や意識づけができた。また、養成講座修了後の介護予防リーダーに対して定例会を実施し、講座内容の振り返りや情報交換を行い、継続支援を行うことができた。
高齢者支援課	150 シルバーマイスター制度	優れた技能、知識、経験等を有する高齢者をシルバーマイスターとして認定・登録し、市民の学習活動の講師や指導者として推薦します。(対象:65歳以上の方)	マイスター認定者 22人 令和元(平成31)年度認定者 3人 活動内容: 司会進行、発声・発音法指導、うどん・そば打ち指導、社交ダンス指導、演奏活動(アコーディオン・ウクレレ・二胡)、和紙ちぎり絵教室、談話と水墨画教室、押花教室、草木染、パソコン講習、ハワイアンキルト教室、華道指導、礼法・着物教室、飛行機の談話・郷土の昔話、朗読、落語、紙芝居等	○	令和元(平成31)年度はシルバーマイスター3人を認定したことにより、学習活動の講師や指導者として活躍できるマイスターが増えた。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	商工観光課	151 吹上しょうぶ公園・梅の公園ガイドボランティア	花しょうぶまつり・梅まつりの期間中に、市民によるボランティアの協力を得て、園内のガイドをしていただくとともに、自然に親しみ、人とのふれあいの場を提供するため、ガイドの募集・講習会を行います。	<ul style="list-style-type: none"> 吹上花しょうぶまつり(令和元年5月26日～6月25日) しょうぶ公園ガイドボランティア <ul style="list-style-type: none"> (1) 打ち合わせ会 <ul style="list-style-type: none"> 事前打ち合わせを開催し情報共有するとともに、まつり終了後は振り返り会を実施し反省点などを確認した。 (2) 講習会の実施 <ul style="list-style-type: none"> しょうぶ公園ガイドボランティア講習会を2回実施した。 (3) 新規募集 <ul style="list-style-type: none"> しょうぶ公園ガイドボランティアの新規募集を行い、2人の応募があった。また、新人講習会を3回実施した。 吉野梅郷梅まつり(令和2年3月7日、8日、14日、15日)で予定していたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止した。 <ul style="list-style-type: none"> (1)梅の公園ガイドボランティア <ul style="list-style-type: none"> 打合せ実施 <ul style="list-style-type: none"> 11月18日に予定するも中止 (2)講習会の実施 <ul style="list-style-type: none"> 2月27日に予定するも中止 	○	<ul style="list-style-type: none"> しょうぶ公園ガイドボランティアについては、新たに2人の応募をいただくことができた。まつり期間中には、来園者の希望に応じたガイドを行い、来園者に楽しんでもらうことができた。 梅のガイドボランティアについては、30年度より活動を再開していたが、新型コロナウイルス感染対策のため中止した。
	農林水産課	152 青梅市森林ボランティア育成講座	初心者・未経験者を対象に、下草刈り、枝打ち、間伐などの森林施業に必要な知識や技術習得の講義・実技指導を行い、森林整備の新たな担い手としての森林ボランティアの育成・組織化を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年度は、第9期の2年目(7回目～12回目)として、実践的な内容を中心に実施した。 第7回 5月11日 間伐、作業道作り 14人 第8回 7月13日 下草刈り 13人 第9回 9月14日 枝打ち作業 12人 第10回 12月7日 竹林間伐、炭焼き体験教室 15人 第11回 1月11日 枝打ち、作業道作り 13人 第12回 3月14日 新型コロナウイルス感染拡大により中止 	○	<ul style="list-style-type: none"> 毎回講座終了前に受講者に作業日誌を記入していただいているが、ほとんどの受講者から充実した内容であった旨の記入があり、一定の成果があったと考えられる。 最終回が新型コロナウイルスの影響で中止となり、最後のまとめである閉講式が出来なかったのが残念でした。
	スポーツ推進課	153 スポーツ推進委員研修	スポーツ推進委員の資質向上を図るため、各種研修会を実施するとともに、東京都スポーツ推進委員協議会等が主催する研修への参加を促します。	<ul style="list-style-type: none"> ニュースポーツ、綱引き、障がい者スポーツ等の研修会に参加した。 回数 5回 延べ参加人数 89人 東京都スポーツ推進委員協議会等の研修会に参加した。 回数 5回 延べ参加人数 19人 	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域のスポーツ推進に関して、指導的な立場にあるスポーツ推進委員の資質向上のため、研修会等へ積極的な参加をしている。 今後の継続性について、委員の選出に当たり後任者探しが困難になっている現状があり、スポーツ推進委員の選出方法等に関して今後検討が必要。
	社会教育課	154 青少年リーダー育成研修会事業	小学5年生から高校3年生までを対象に、異年齢集団による団体活動を通じて、自主性や社会性を養い、リーダーとしての資質の向上を図ります。	6月16日～8月25日 全7回 市役所、国立赤城青少年交流の家ほか 延べ参加人数 275人	○	全7回の研修会で、班活動や野外炊事体験、プロジェクトアドベンチャー等の活動を実施し、仲間との信頼関係を築くことや、自主性・社会性の養育を図った。
	社会教育課	155 講師・指導者およびボランティア協力者・協力団体人材登録制度	地域の人材を発掘し、身に付けた知識・技術などを広げていくため、人材登録制度を実施し、地域の教育力の向上を図ります。活用を促進するため、ガイドブックを発行します。	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会ホームページにて情報提供した。 個人 文化系 51人 体育系 12人 団体 文化系 2団体 	○	文化系、体育系共に横ばいであった。今後も広報おうめや生涯学習だよりを活用し、広く周知を図る。
	社会教育課	156 芸術文化奨励賞	青梅市の芸術文化の発展を願って、地域で活動されている芸術家の方を発掘し、表彰します。	<ul style="list-style-type: none"> 書道 下笹綺子 第55回全日本書初め大展覧会中学校の部「文部科学大臣賞」受賞 ダンス 市立第三小学校ダンスクラブUnity6 第7回全日本小中学生ダンスコンクールに出場決定 音楽 市立第三小学校金管バンドクラブ 全国小学校管楽器合奏フェスティバル東日本大会2020に東京都代表として出場決定 音楽 市立第三中学校吹奏楽部 第24回日本管楽合奏コンテスト中学校B部門に出場 音楽 市立第六中学校吹奏楽部 第24回日本管楽合奏コンテスト中学校S部門に出場 音楽 市立吹上中学校吹奏楽部 第24回日本管楽合奏コンテスト中学校S部門に出場、第59回東京都中学校吹奏楽コンクール東日本部門で東京都代表として選出され、東日本中学校吹奏楽大会に出場決定 音楽 市立泉中学校吹奏楽部 第24回日本管楽合奏コンテスト中学校A部門に出場 	○	<ul style="list-style-type: none"> 学校や文化団体へ、芸術文化奨励賞の周知を図るとともに、広報おうめや市ホームページ等を通じ、広く周知することができた。また、新聞のデータベースを活用し、各大会の受賞状況を調査した。それによって、芸術・文化活動に業績を上げた対象者をもれなくリストアップできた。 基金をもとに、受賞者には記念品を交付した。 また、青梅市文化交流センターにおいて、平成29年度から令和元年度の受賞者による発表会、作品展を行った。 作品展：12月19日～22日 発表会：12月22日
	社会教育課(図書館)	157 おはなし学習会	おはなし(ストーリーテリング)の初心者で、市内でおはなしの活動をしたい方、または行っている方を対象に、実践を含めた勉強会を実施します。	・おはなしドーナツ(経験者) 4月17日～2月27日 30回 延べ参加人数 345人	○	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催事業は中止したが、11か月間事業を実施した。 令和元年度はお話し経験者のお話し会技術向上を図った。参加者が多いため、3グループに分け開催した。ボランティアの技術向上が図れた。

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(2) 地域人材の育成と活用	社会教育課(図書館)	158 絵本のべんきょう会	市内ではおはなしの活動をされたい方、または行っている方を対象に、絵本の読み聞かせの実践を含めた勉強会を実施します。	・絵本の読み聞かせ学習会 4月18日～2月20日 10回 延べ参加人数 59人 ・絵本のべんきょう会 5月24日～1月24日 5回 延べ参加人数 90人	○	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月開催事業は中止したが、11か月間事業を実施した。 絵本の読み聞かせの勉強会を2事業、計15回開催し、延べ149人の参加者があった。 今後も開催回数や内容の充実を図ることが課題である。
	商工観光課・青梅商工会議所	159 合同企業説明会in青梅	『地学地就』(地元で学んで地元就職する。)をテーマに、多摩地域の学生と、新卒採用する企業との出会いの場を提供します。	青梅商工会議所の会員企業を募り、新卒学生を対象に企業説明、マッチングの機会を提供した。 開催日:令和元年6月7日(金) 会場:ネッツたまぐーセンター1階多目的ホール 参加企業 12社、参加学生 11人	△	平成28年度以降実施を見送っていたが、4年ぶりに開催された。 近年の売り手市場により、新卒の参加者は市内中小企業より、都心部の大手企業に着目する傾向が続いており、市内企業の魅力をいかに伝えていくか、大きな課題を残した。

4 学習情報提供と学習相談の充実

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由	
(1) 学習情報提供の充実	秘書広報課	160	「広報おうめ」への行政情報等掲載	月2回発行する「広報おうめ」に行政情報等を掲載します。	毎月1日、15日を発行日とし、24回発行した。 市政情報等のほか、市民団体が開催するイベントや会員募集などについても掲載した。 また、春の訪れを感じられる写真を募集し、3月15日号に掲載した。	○	市政情報等の情報発信の充実に努めた。
	秘書広報課	161	市ホームページへの行政情報等掲載	市ホームページに行政情報等を掲載します。	青梅市公式ホームページおよび青梅市教育委員会公式ホームページの再構築を実施し、令和2年1月から公開を開始した。 市の情報や魅力を広く発信するため、観光情報サイトのほか、市公式キャラクターや地域の魅力発信などをテーマとする専用サイトを設置した。 また、市民が撮影した写真を掲載する「市民時計」、市の観光スポットを紹介する「パノラマビュー」を設置した。	○	市政情報等の情報発信の充実に努めた。
	情報システム課	162			秘書広報課へ移管	-	
	防災課	163	土砂災害ハザードマップの作成	土砂災害ハザードマップを作成・配布し、危険区域の住民周知を行うとともに、土砂災害対応訓練を実施し、市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ります。	河辺小学校・河辺市民センターにおいて関係機関相互の協力体制の緊密化および防災計画の習熟化を図り、市民の防災意識を高めることを目的として、青梅市土砂災害対応訓練を実施した。 1 実施日時:6月30日(日)午前10時から正午まで 2 参加機関:青梅市、青梅消防署、青梅警察署、西多摩建設事務所、青梅市消防団、河辺地区防災対策委員会ほか 3 参加人数:340人	○	土砂災害対応訓練を関係機関と緊密に連携し、実施することで、河辺地区を中心とした市民の防災意識の高揚と知識の習熟を図ることができた。
	市民活動推進課	164	男女平等情報紙	市民の関心と理解を深めるため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を年2回発行します。	市民等への男女平等参画の意識啓発のため、男女平等情報紙「よつばの手紙」を10月と3月にそれぞれ31,000部発行し、自治会加入世帯および公共施設等へ配布した。	○	情報紙は、市民が参画する編集委員会が企画・編集しており、毎号、記事内容、装丁などの更なる充実に向けて話し合いながら取り組んでいる。
	市民センター	165	市民センターだよりの発行	市民センターで開催される事業や地域の色々な行事などの話題をお知らせします。	・支会や自治会の行事を青梅市自治会連合会ホームページに掲載し、情報発信を行った。 ・センターだよりを発行し、市民センター行事や支会行事情報の周知に努めた。	○	ホームページによるお知らせとともに市民センターだよりを発行することにより、より幅広い市民への周知を図れた。 各自治会へ回覧するなどにより、ホームページの閲覧などパソコン操作が苦手な方などへも、一定の周知ができた。
	市民税課	166	青梅税務署管内小学生による『税を考える週間』書道展	西多摩地区税務協議会主催で、青梅税務署管内の小学5・6年生を対象に、書道作品の募集を行います。 厳正な審査を行い、入賞者を決定、入賞作品の展示会(イオンモール、合同庁舎)および表彰を行います。	青梅税務署管内小学5・6年生から4,039点の応募があり、青梅市からは15校1,065人から応募いただき、うち特選5人、準特選4人、金賞9人、銀賞13人、銅賞12人、佳作42人 計85人が入賞した。入賞者の作品については、下記会場にて展示を行った。 ・イオンモール日の出 イオンホール 会期 11月8日～10日 ・青梅合同庁舎(青梅都税支所) 会期 11月12日～15日	○	青梅税務署管内および青梅市とも応募者数は昨年を上回り、書道を通じて税に関する正しい知識の普及と意識の高揚を図り、租税教育を推進することがおこなわれた。
	社会教育課	167	生涯学習だよりの発行	市の各種教室、講座、講演会、イベントや市民グループ・団体および西多摩の関係施設の生涯学習情報をまとめて提供し、市民の学習活動を応援します。 年4回発行(4月・7月・10月・1月)	生涯学習だよりの部数を各回1,500部、年4回発行した。また、教育委員会と市のホームページにも掲載した。	○	各種団体に掲載記事の募集を行い、寄せられた情報をもとに行事・イベント等予定や実施した事業などの掲載を行った。掲載内容については今後も検討していく。
	社会教育課	168	社会教育事業の学校への周知	市民センター等で実施する生涯学習事業を積極的に学校へ周知をします。	講座開催ごとに、小・中学校などにポスター・チラシを送付するほか、生涯学習だよりを配布して周知した。	○	講座によってチラシの配布方法や枚数を変更した。また、子ども向けの講座や講演会は学校に申込みボックスを設置し、申し込みやすくなるなど工夫を図った。
社会教育課(図書館)	169	図書館報の発行	図書館の事業や新着図書を紹介する図書館報を発行します。	・図書館報 年6回発行 各回約180部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載	○	2か月に1回の発行ペースで年6回発行し、図書館事業を紹介することができた。今後も内容の充実を図ることが課題である。	

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 学習情報提供の充実	社会教育課(図書館)	170 ブックリストの配布	幼児、小学校(低・中・高学年別)および中・高等学校の児童・生徒に推薦図書リストを配布します。	・幼児向けブックリストを市内幼稚園、幼稚園、保育園を中心に配布した。 ・小学校(低・中・高学年)向けブックリストを市内の小中学校を中心に6,500部配布した。 ・中高生向けブックリストを中学校に1,000部配布した。	○	保育園や小中学校など市内全域の幼児・児童・生徒にブックリストを配布することができた。
	社会教育課(図書館)	171 分館図書館だよりの発行	新着図書を中心に、特集なども組んだりしながら、市民への推薦図書を楽しく紹介する、図書館だよりを発行します。	・分館図書館だより 毎月発行(年12回)・各回113部作成 中央図書館・各分館で配布、ホームページへの掲載	○	毎月発行し、発行時期に応じた特集や新着図書を紹介することができた。今後も内容の充実を図ることが課題である。
(2) 学習相談の充実	社会教育課	172 生涯学習相談	青梅市に登録された講師・指導者等の人材情報や生涯学習施設、講座・催し物、学習グループ等の情報にもとづいて学習相談を受け、市民の学習意欲が活動につながる相談体制を構築します。	窓口で随時情報提供を行うほか、ホームページによる周知を図った。 文化交流センターで活動している団体を紹介した冊子を活用した案内を行った。	○	窓口や電話でのサークル紹介や講師紹介を行った。 文化交流センターの案内を作成し、活動内容による施設の紹介に努めた。

5 生涯学習推進体制の確立

施策の方向	担当課	事業名	事業内容	令和元年度取組状況	担当課評価	評価理由
(1) 推進体制づくり	職員課	173 職員研修受講支援	「青梅市生涯学習まちづくり出前講座」等の生涯学習の推進を図るため、職員の担当業務に必要な能力の向上や知識を得るための研修受講を支援していきます。	業務に必要な知識等の修得を図るため、東京都市町村職員研修所の実務研修に33人、東京都研修所等の公的機関が主催する研修に5人、その他各種研修機関が主催する研修に46人、先進自治体などの視察に12の職員を派遣した。また、自己啓発学習を促す通信教育等を10人が受講した。	○	平成31年度研修実施計画にもとづき、職層や経験年数に応じた研修に、効果的に職員を派遣することができたため。
	社会教育課	174 生涯学習推進本部	市長を本部長とする生涯学習推進本部(行政組織)で、生涯学習推進の目標・基本方針、推進計画を策定し、生涯学習推進施策を全庁的に進めます。	・生涯学習推進本部会議開催数 2回 第1回開催日 4月23日 第2回開催日 11月5日 内容 出前講座の実施状況、新緑祭の開催について等	○	生涯学習本部会議を2回実施し、各課で行う出前講座の実施状況やその他青梅市の生涯学習に関する報告等を行い、青梅市の生涯学習全体の状況について議論した。
	社会教育課	175 生涯学習推進市民会議	学識経験者や生涯学習関係団体の代表者等からなる市民組織。市民の声を聴きながら、市と市民の協働で生涯学習推進施策を進めます。また、生涯学習推進市民会議企画講座を実施します。	・生涯学習推進市民会議開催数 3回 ・管外視察研修 10月16日 府中市市民活動センタープラッツ、ルミエール府中 府中市市民会館 ・生涯学習推進市民会議企画講座 10講座 延べ参加人数 399人	○	新緑祭の運営方法等や市民会議企画講座の実施の促進等について話し合った。また、管外視察研修として、平土間のホール等がある府中市の府中市市民活動センタープラッツとルミエール府中を視察した。
(2) 基盤づくり	社会教育課	176 市民企画講座の募集	市民ニーズに合った講座を生涯学習推進市民会議等から募集し、市内の施設で開催します。	・生涯学習推進市民会議企画講座 10講座 延べ参加人数 399人	○	市民会議委員の協力により、講座を実施した。成人向けのほか親子で参加できる講座を実施し、幅広い年代の参加が図られた。
	社会教育課	177 アンケートの実施	講座や講演会の参加者にアンケートを実施し、市民の学習ニーズを把握します。	アンケート項目に今後参加したい内容を過去のアンケート、実施内容から例を上げ、回答者が選択できるようにした。	○	参加者のニーズがより把握しやすくなった。
	社会教育課	178 学習支援体制の構築	より多くの市民が学習機会を得ることができるよう、保育付きの教室や手話通訳者を配置するなど、学習支援体制の構築を推進します。	子育て世代が対象となる講座や講演会は、受講希望者が参加しやすくなるよう、託児を行った。	○	毎回テーマを変えて2回の講演会を行い、乳幼児の保護者も参加しやすいう、託児保育を行った。3回目は幼稚園を会場として実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となった。

令和2年度

第六次青梅市生涯学習推進計画進捗状況報告書

(令和元年度分事業)

発行 青梅市生涯学習推進本部

編集 青梅市生涯学習推進本部事務局

青梅市教育委員会教育部社会教育課

〒 198-8701 青梅市東青梅 1-11-1

令和2年度第六次青梅市生涯学習推進計画 進捗状況報告書
(令和元年度分事業)

青梅市生涯学習推進本部